

マルクスは”monied capital”という語をどこからとったのか：『資本論』第3部第5篇のキーワードの出どころを探る

OTANI, Teinosuke / 大谷, 禎之介

(出版者 / Publisher)

法政大学経済学部学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

経済志林 / The Hosei University Economic Review

(巻 / Volume)

79

(号 / Number)

2

(開始ページ / Start Page)

19

(終了ページ / End Page)

89

(発行年 / Year)

2011-09-15

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00007731>

マルクスは“monied capital” という語をどこからとったのか ——『資本論』第3部第5篇のキーワードの出どころを探る——

大 谷 禎 之 介

目 次

はじめに

1. monied capitalistというタームについて
2. “*monied capital im englischn Sinn*” の意味
3. マルクス以前の経済学者によるmonied capitalという語の使用例
4. 議会報告書におけるmonied capitalという語の使用例
5. 教科書ないし辞典におけるmonied capitalの説明
6. その他の出版物におけるmonied capitalの使用例
7. マルクスにおけるmonied capitalの意味

おわりに

文献

別表 I 1860年代中葉までの英米におけるmonied capitalistの用例

別表 II 1860年代中葉までの英米におけるmonied capitalの用例

はじめに

マルクスは『資本論』第3部第1稿の第5章「利子生み資本」（エンゲルス版第3部第5篇）で、とりわけその第5節「信用。架空資本」（エンゲルス版第3部第25-35章）のなかで、monied capitalまたはmoneyed Capital

(以下では、おおむねmoniedおよびmoneyedという表記をmoniedに代表させる) というタームをきわめて重要なキーワードとして頻用した¹⁾。エンゲルスは、マルクスの草稿を使って第3部を編集するときに、この語をほとんどすべてドイツ語での「貸付資本 [Leihkapital]」、「貸付可能資本 [Leihbares Kapital]」、「貨幣資本 [Geldkapital]」などの語に置き換えたので、第3部の現行版では、マルクスがこの語を頻用したことがまったく見えなくなっていたが、筆者が1982年以降2002年までに行なった、草稿第5章の内容の紹介によって、またその後、第3部第1稿を収録したMEGA第2部門第4巻第2分冊が1993年に刊行されたことによって、マルクスによるこの語の頻用はすでに事実として広く知られているであろう。

マルクスによるこのタームの使用について、筆者は、1984年に発表した拙稿で、マルクスは、当時イギリスで「実務的にも理論的にもごく普通に用いられている語を意識的にそのまま使ったものと考えられる」²⁾と述べた。またその後も同じ趣旨の拙見を何度か活字にする機会があったが、20年後の2004年12月に行なった法政大学経済学部での最終講義のなかで、あらためて次のように述べた。

「第3部の第4章までのどの章でも分析の対象がつねに資本であったように、この第5章でも分析の対象は資本ですが、ここではそれが利子生み資本という形態をとっている資本でして、これを研究しなければなりません。しかし、発展した資本主義的生産様式のもとでは、この利子生み資本という資本が社会の表面で取っている姿、人々の目に見えている典型的な形態は、さまざまな源泉から銀行に集まってきて、そこで運

1) 『資本論』に着手するまえに執筆した23冊のノート(『1861-1863年草稿』)のうちのノートXV-XVIII(MEGA II/3. 5, S. 1543-1773; 『資本論草稿集』⑧, 3-379ページ)で、貨幣取扱業務の名のもとで銀行業を対象に据え、かなり立ち入って論じたが、そのさいすでに、銀行が管理する利子生み資本をmonied capitalと呼び、この語を多用していた。拙稿『『資本論』の著述プランと利子・信用論』、『経済志林』第68巻第1号、2000年、101-103ページを参照されたい。

2) 拙稿「『信用と架空資本』(『資本論』第3部第25章)の草稿について(下)」、『経済志林』第51巻第4号、1984年、22ページ。

用を待っている資本です。19世紀のイギリスでは、経済界の当事者たちはこの資本をmonied capitalと呼んでいました。monied という語は、貨幣を意味するmoneyが動詞として使われ、その過去分詞が形容詞となったものです。そこでこれを「貨幣資本」と訳したくなりますし、そう訳すのはまったくの誤りだとは言えませんが、しかしこれをもっぱら「貨幣資本」と訳して済ましてしまうと、いろいろな誤解が生まれます。と言いますのも、産業資本や商業資本が運動のなかで貨幣の形態を取っているとき、この形態にある資本のことを「貨幣資本」と言いますので、これと一緒にしてしまうからです。マルクスは、資本が循環のなかで取る形態としての「貨幣資本」とははっきり区別して、銀行制度のなかで運動している利子生み資本が人々の表象のなかに現われる形態を、分析すべき対象としてつかまえるときに、人々が使っていたこのmonied capitalという呼び方は、まさに言い得て妙だ、と考えたのではないかと思います。彼は第3部第5章で、信用制度のもとでの利子生み資本を、圧倒的に、monied capitalという英語で書いているのです。³⁾

マルクスによるmonied capitalというタームの使用についての筆者のこのような判断にたいして、2006年に小林賢齊氏が論文「『英語でいうmoneyedなCapital』について」で異論を唱えられた⁴⁾。小林氏は、マルクスがイギリス議会下院の「商業的窮境」にかんする委員会での証言録から、

3) 拙稿「マルクスの利子生み資本論」、『経済志林』第72巻第4号、2005年、17-18ページ。

4) 小林賢齊「『英語でいうmoneyedなCapital』について——『資本論』第Ⅲ部第28章冒頭部分再考——」、『武蔵大学論集』第53巻第3・4号、2006年。小林氏が拙見を意識してこの論文を執筆されたことは、前記拙稿「『信用と架空資本』の草稿について」から、本稿で上に引用した箇所を注記しておられるところから明らかである。なお、2010年に刊行された小林氏のご新著『マルクス「信用論」の解明』（八潮社）の第10章は「英語でいうmoneyedなCapital』について——手稿「1」」（現行版第28章）の冒頭部分について——という表題をもつが、その内容は上記論文に大幅に手を入れられたものである。そのなかで小林氏は次のように書かれている。

「著者（小林）は旧稿『『英語でいうmoneyed なCapital』について』において、「moneyed (monied) capitalという言葉（熟語）を当時イギリス人が普通に用いていたとは考えられない。この言葉は、むしろマルクスの造語と見る方が時宜になっっているように思える」（『武蔵大学論集』第53巻第3・4号、2006年、24ページ）と記したが、これは誤りで、「貨幣市場」

moneyed Capitalという語が含まれている、証人ホジスンにたいするクレイの質問を抜粋していることを指摘されたうえで、次のように書かれている。

「クレイによる質問を除くならば、管見する限り、moneyed (monied) Capitalという言葉(熟語)を当時イギリス人が普通に用いていたとは考えられない。この言葉は、むしろマルクスの造語と見る方が時宜に適っているように思える。」⁵⁾

小林氏のこの論稿より少し前に、大友敏明氏が論文「投機と信用」⁶⁾のなかで、トゥックによる「マニド・キャピタル」論に注目しておられた。大友氏はこの論文では、monied capitalという語のトゥックによる使用とマルクスによる使用との関連にはまったく触れておられなかったが、トゥックによるこの語の意識的な使用について詳述されることによって、実質的には、マルクスがトゥックによるこの語の使い方を評価しながらこの語を使ったのではないかと示唆されていたと考えられる。

筆者は、小林氏からの抜刷恵与にたいする小林氏への礼状のなかで大友氏のこの論文を紹介し、トゥックがmonied capitalという語を使用していることをお伝えした。小林氏は、その後2008年に論文「解題：『唯一困難な

にある「貸付可能な資本」に対し、das zinstragende Capitalという言葉を作り出したのがマルクスであったと改めねばならない。しかし別の旧稿「解題：『唯一困難な問題』について」でも既に記しておいたように(『武蔵大学論集』第55巻第3号、2008年、11-14ページ参照)、「イギリスで実務的にも理論的にもごく普通に用いられている語 [monied capital] を [マルクスは] 意識的にそのまま使ったもの」[大谷『貨幣資本と現実資本』の草稿について、81ページ]とは考えられない。」(同書、375-376ページ)

小林氏は、monied capitalという語を「マルクスの造語と見る」ことは撤回され、今度は「das zinstragende Capitalという言葉を作り出したのがマルクスであった」と言われているわけである。しかし、小林氏自身も認めておられるようにマルクス以前にイギリスで interest-bearing capital という語がすでに使われていただけでなく、ドイツ語の zintragendes Capital という語そのものも、Google Bücherでこの語を検索してみればすぐに分かるように、19世紀前半からドイツ語圏ですでに広く使われていたのであって、この「言葉を作り出した」のがマルクスでないことは明らかである。monied capital という語をめぐって同書のなかで依然として繰り返されている拙見への異論にたいしては、本稿の全体が答えるであろう。

5) 同前、24ページ。

6) 大友敏明「投機と信用——1825年恐慌とフリーバンキング学派——」、『山梨大学教育人間科学学部紀要』第7巻第2号、2005年。

問題」について⁷⁾を発表され、そのなかで氏は、「その後、大谷禎之介氏、大友敏明氏から、トゥックが、その初期の論考「通貨の状態についての考察 (Considerations on the State of the Currency)」(1826年)において、'monied Capital' という言葉を用いているとのご指摘を受けた」と記されたうえで、なお、「クレイが委員として質問している当の「商業的窮境」についての委員会 (1847-48年)において、証人として立ったトゥックはこの言葉を用いていない」と「付記」されていた。

その後、大友氏は2009年に、さきの論文「投機と信用」で言及されたトゥックのmoneyed Capital論をあらためて独自のテーマとして設定され、この点についての考究を深めた論文「Moneyed Capitalの蓄積について」⁸⁾を発表された。そのなかで氏は、monied capitalというタームの使用について次のように書かれている。

「Monied capitalは、通例、貨幣資本あるいは貸付可能な資本と訳されるが、貨幣資本という概念はA. スミスやリカードの古典派経済学にはない。古典派は実物経済を分析対象に据え、固定資本および流動資本からなる現実資本の運動をもっぱら解明し、貨幣を流通媒介物としてのみ把握したからである。貨幣資本を現実資本からもまた通貨からも区別しようとしたのは、1825年恐慌の原因と対策をめぐる論争においてトゥックが『考察』のなかでmonied capitalという用語を駆使したのが最初なのである。」⁹⁾

そして大友氏は、この箇所に次のように注記されている。

「マルクスは『資本論』第3巻第5編第28章の冒頭で「利子生み資本 (英語でいうmoneyed Capital)」と述べている。このmonied capitalという用語を、最初に誰がどのような意味で使ったかについてはこれまで明

7) 小林賢齊「解題:「唯一困難な問題」について——手稿「信用。架空資本」に即して——」, 『武蔵大学論集』第55巻第3号, 2008年。

8) 大友敏明「Monied Capitalの蓄積について——トーマス・トゥックと匿名氏の『通貨理論論評』——」, 『経済学史研究』第51巻第1号, 2009年。

9) 同前, 36ページ。

らかにされてこなかった。大谷楨之介は「マルクスは、もろもろの種類
の資本家や実務家や経済学者が「貨幣資本〔monied capital〕」と呼んで
いたものの、資本としての最も本質的な規定を概念的に「利子生み資本」
として把握した」（「貨幣資本と現実資本」（『資本論』第3部第30–32章）
の草稿について」、『経済志林』第64巻第4号、68ページ）と述べるにと
どまり、「資本家や実務家や経済学者」の誰であるかを特定するにはいた
らなかった。また小林賢齊は「moneyed (monied) capitalという言葉（熟
語）を当時イギリス人が普通に用いていたとは考えられない。この言葉
は、むしろマルクスの造語と見る方が時宜に適っているように見える」
と述べている。」¹⁰⁾

そして大友氏は同論稿に、「Monied Capitalという概念について」という
節を設けて、monied capitalについてのトゥックの見解と、トゥック宛ての
手紙のなかでmonied capitalについて論じたペニンントンの見解とを説明さ
れている。その末尾につけられた注では、次のように書かれている。

「monied capitalあるいはmoney capitalという用語は、1830年代になっ
て他の論者によって使用されていく。……またフリーバンキング学派の
ギルバートはbanking capitalという用語を使用している。」¹¹⁾

大友氏は、この論稿を次の文で締め括られている。

「1825年恐慌の原因をめぐってリカードウ理論の継承者であるマカロ
クに対してトゥックが提起した問題は、通貨主義を批判する1845年の匿
名氏〔『通貨理論論評〔Currency Theory Reviewed〕』の筆者〕によって
新たな形で展開され、彼の『論評』での論述はのちのマルクスに影響を
及ぼすことになったのである。」¹²⁾

さらに、ここにも注がつけられていて、そこには次のように書かれている。

「マルクスは、トゥックの『考察』の11–12頁から抜粋したものを『資

10) 同前、54ページ。

11) 同前、55ページ。

12) 同前、53ページ。

本論』第3巻第5編第23章「利子と企業者利得」の冒頭で引用している。ただしこの引用は、トゥックの『物価史』第2巻（1838年）の付録からである。この引用のなかには、「monied capitalの一定額」を貸し付けるという言葉がある。マルクスはトゥックがmonied capitalという言葉を使っていたことを十分に知っていたと思われる。そこからただちにマルクスのmonied capitalの概念とトゥックのそれとを同一視することはできないが、マルクスはmonied capitalを使用していた「もろもろの種類の資本家や実務家や経済学者」（大谷）のなかにトゥックも含めていたことだけはたしかである。」¹³⁾

大友氏による以上の論述から読み取れるのは、トゥック以前にmonied capitalという語を使用した者がいたかどうかということについては言及を避けられながらも、最初にmonied capitalという語にたんなる「貨幣形態にある資本」とは区別しての独自の意味を与えて、この語を意識的に使ったのはトゥックであり、断定されてはいないものの、マルクスはトゥックからmonied capitalの「概念」を批判的に受け継いだと見ておられる、ということである。

じつは筆者は、monied capitalについて小林氏や大友氏と交信した2006年の時点では、マルクスの多くの記述から、「もろもろの種類の資本家や実務家や経済学者」がmonied capitalという語を使っていて、マルクスはそれの「資本としての最も本質的な規定を〈利子生み資本〉として把握した」のだ、と結論づけることができる、と確信してはいたが、その「もろもろの種類の資本家や実務家や経済学者」が誰々であったのかをはっきりと特定

13) 同前、57ページ。なお、筆者は2006年4月27日発信のメールで大友氏に、トゥックが『物価史』第2巻の付録に『考察』の一部を再録していること、また、草稿第5章のうちの、エンゲルスが彼の版の第23章に利用した部分の冒頭でトゥックから引用し、そのなかにmonied capitalの語が含まれていることをお知らせした。つまり、筆者はこの時点では、マルクスがトゥックによるmonied capitalの使用を知っており、「もろもろの種類の資本家や実務家や経済学者」のうちのひとり、しかもとくに重要なひとりであることを確信していたのである。

し、意識していたわけではなかった。だから、大友氏の論稿と小林氏による筆者への異論に接して、そのような人物を具体的に突き止めておく必要を痛感し、それを探索する作業を開始した¹⁴⁾。

まず、マルクス以前の経済学者たちがmonied capitalという語を使っているか、調べることに着手した。この作業は思いがけず順調に進んで、のちに示すように、リカードやマルサスやジョン・ステュアート・ミルやシーニアといった、マルクスが読んだにちがいない学史上の著名な経済学者たちの幾人もが、すでにこの語を使っていたことを知ることができ、かつての拙見を裏づけてくれるだけの材料は集まったと判断し、そろそろ論稿にまとめようと考えつつあった。

ところが、それからまもなく、遅ればせながら、このような探索の劇的な進捗を可能にする強力な武器がすでに完全に実用化されていることに気がついた。それは、Google booksによる検索を利用して、Googleがpdfファイルとしてすでに蓄積している膨大な書籍の山から検索語句を含む書籍を見いだす、という新たな手法である。この手法があることは知っていたが、そのすさまじい威力はまだ体感していなかったのである。これをmonied capitalの探索に利用してみたところ、驚くほど多数の検索結果を一挙に入手できた。この検索結果によって、monied capitalというタームは、すでに18世紀いらい、「もろもろの種類の資本家や実務家や経済学者」によって広く使われていたことを完全に確定できたのである。

以下、本稿では、マルクスが『資本論』第3部第1稿を執筆した1865年ごろよりもはるか以前から、monied capitalというタームが英語圏で一般に広く使われていたことを、具体的な使用例を挙げて示したい。

1. monied capitalistというタームについて

マルクスによるmonied capitalというタームの使用を見るまえに、この語

14) この探索作業の開始を促してくださったことについて、小林氏と大友氏に深謝する。

と近親関係にあるmonied (moneyed) capitalistというタームについて触れておきたい。

マルクスは第3部草稿の第5章のなかで、「利子生み資本」によって利子を取得する資本家、すなわち「利子生み資本」の人格化である資本家を、一貫してmonied (moneyed) capitalistと呼んだ。これは、「利子生み資本 [zinstragendes Kapital]」という語の「資本 [Kapital]」を「資本家 [Kapitalist]」に変えてzinstragender Kapitalistとただけだと、「利子を生む資本家」ということに、つまり資本家が利子を生むということになってしまうので具合が悪い、ということもあったかもしれない。マルクスの「利子生み資本 [zinstragendes Kapital]」というタームは英語のinterest-bearing capitalに当たるドイツ語であったが、これも、capitalをcapitalistにしてinterest-bearing capitalistとは言えないようなものである。(ちなみに、エンゲルスは『資本論』第3部を編集するさいに、この語をすべてドイツ語の「貨幣資本家 [Geldkapitalist]」に置き換えた。)

この語とmonied capitalという語とは、外形的には、後者のうちのcapitalがcapitalistとなっているというだけの違いである。このあと見ていくように、じつは、この両語はともに、すでに18世紀のイギリスおよびアメリカの文献のなかに散見され、続く19世紀にはいってからは、さまざまな文書のなかに頻出する。だから、この両語を使った人びとには、当然に、monied capitalをもち、運用する資本家がmonied capitalistだ、と考える語感も、また逆に、monied capitalistがもち、運用する資本がmonied capitalだ、という語感もありえただろう、と推測できる。そうだとすれば、マルクスも、monied capitalという語をmonied capitalistという語とはまったく無関係の別の語だと感じていたはずがない。だから、第5章の冒頭部分（エンゲルス版第21章に使われた部分）でマルクスが利子生み資本によって利子を取得する資本家をmonied capitalistと呼んだときには、すでに、この資本家がもち、運用する資本をmonied capitalと呼ぶ当時の人びとの語感を意識していたことは確実である。そういうわけで、monied capitalistという語が当時い

ろいろな分野で広く使われていた語であることを知っておくことが、マルクスによるmonied capitalという語の使用の背景を知ることには役だつはずなのである。

そこで、Google booksでの検索結果を利用して作成した別表Iをご覧いただきたい。この表では、monied capitalistという語を含む、把握できた1865年（『資本論』第3部第5章の執筆時点）までの文献ないし文書を出版年の順に挙げてある。第1欄は出版年で、これをイタリックにしているのはアメリカで刊行された文献であり、それ以外はすべてイギリスで出版された文献である。

ご覧のように、イギリスではすでに1791年刊行の文献にmonied capitalistという語が見られる。このリストはGoogle booksが現在までにpdf化して公開している文献だけなのだから、これ以外にもすでに18世紀にmonied capitalistという語が使われていたことはまちがいない。興味深いのは、1820年代代まではほとんどmoniedと表記しているのにたいして、30年代以降、moneyedという表記が増加していく傾向が見られることである。このあとで見るmonied (moneyed) capitalの場合にも、moniedという書き方とmoneyedという書き方とのあいだにほぼ同様の傾向が見られるので、おそらく、moneyという名詞から派生したこの形容詞では、1830年代ごろからmoniedという表記が次第にすたれて、moneyedという表記が多くなっていったのであろう。マルクスは第3部第1稿第5章ではこの両方の書き方を混用しているが、より多く使っているのはmoniedのほうである¹⁵⁾。しかし、英米の文献でそうであるように、マルクスの場合にも、両語に意味の違いはまったくない、と断言できる。そのことを如実に語るのは、1832年に初版が刊行されたトマス・チャーマズの“On Political Economy: in Connecting with the Moral State and Moral Prospects of Society”と、1844年に初版が刊行されたトマス・ド・キンシンの“The Logic of Political Economy”と

15) capitalistの場合、monied capitalistが約85%であり、capitalの場合、monied capitalが約55%である。

の両書のケースである。この両書の初版でmonied capitalistとなっていた同じ箇所（前者のp.165, 後者のp.228）が、前者の1833年に刊行されたアメリカ版（p.134）と後者の1859年に刊行されたアメリカ版（p.170）では、ともにmoneyed capitalistに変えられているのである。おそらく、moneyedと表記する傾向は、アメリカではイギリスでよりも早く広がったのであろう。

なお、念のために言えば、のちに掲げる二つの別表で、monied capitalistの場合にもmonied capitalの場合にもイギリス刊行の文献とアメリカ刊行の文献とが挙げられているが、おそらく、これらの表での両者の量的な比率は、両国の人びとのあいだでの実際の使用頻度の比率を反映したものではない。というのも、Google booksがこれまでにpdf化した専門書のなかでは、アメリカの図書館の蔵書が先行して圧倒的であり、したがってまたアメリカで刊行された書籍が相対的に多いのではないかと推定されるからである。

それから、次節で見るジェファスンやテイラがそうであるように、マルクスが読んだ文献には、アメリカで刊行された書籍も多く含まれていたのだから、彼のmonied capitalやmonied capitalistの上流を探るさいに、アメリカで刊行された書籍を取り除く必要はない。ここで肝心なのは、イギリスでもアメリカでも18世紀以降の文献にこれらの語が次第に多く使われていったという事実をはっきりと確認することである。

さて、さきに、「この両語を使った人びとには、当然に、monied capitalをもち、運用する資本家がmonied capitalistだ、と考える語感も、また逆に、monied capitalistがもち、運用する資本がmonied capitalだ、という語感もありえただろう」と書いたが、正確に言えば、monied capitalistの場合には、「monied capitalをもち、運用する資本家」という語感とはやや異なる意味合いをもつことがあったと考えられる。それは、資本家そのものについて、“monied”な資本家、というように、“monied”が、資本ではなくて資本家を修飾している、という語感である。monied capitalistという語

は、もともと、資本主義社会への移行期に、landed interestまたはlanded classという土地所有者階級に対抗して台頭してくる「金持ち」層を意味したmonied interestまたはmonied classという語が使われていたのであって、このうちのinterestないしclassがcapitalistに置き換えられることで、この語が使われるようになったのだと思われる¹⁶⁾。この語は、まずは、富んだ商人や貨幣取扱業者、生まれつつあった銀行制度のなかで富を成す人びとをイメージさせていたのであろう。そこから、場合によっては、moniedは「大金持ちの」という意味で使われることもあったであろう。「別表 I」のなかには、そうしたニュアンスの使用例も見受けられる。

このような意味で英米で使われていたmonied capitalistという語をマルクスは借用したわけだが、マルクスが繰り返して引用したチャーマズがこの語で商業資本家を指していたのにたいして、マルクスはこの語を、『経済学批判要綱』でも『1861-1863年草稿』でも『資本論』でも、一貫して、利子生み資本の人格化、すなわち貸付資本家——この貸付資本家にはもちろん金利生活者が含まれるし、さらに、生産的資本家でさえも、その遊休貨幣資本を貸し付けているかぎりは貸付資本家でもある——ないし銀行業者たる利子生み資本家の意味で使った。つまり、マルクスは広く使われているmonied capitalistという語を借用はしたが、それを独自の意味に限定して使ったのであった。このことは明らかで、見間違いようがない。だからこそ小林氏も大友氏も、monied capitalの源流を問題にされながら、monied capitalistという語についてはその源流を問おうとされなかったのだと考えられる。

なお、Google booksでの検索によれば、当時、*money capitalist*および*monetary capitalist*という語も使われていたが、これらの語の使用頻度は、

16) ちなみに、さきに触れた（またのちの「4. 議会報告書におけるmonied capitalという語の使用例」でも触れる）、monied capitalという語が含まれているクレイの質問を収録したイギリス議会下院の「商業的窮境」にかんする委員会1857-1858年での証言録では、monied interestという語は繰り返して出てくるが、monied capitalistという語はまったく使われていない。

monied (*moneyed*) capitalistの使用頻度と比べると相対的にきわめてわずかであり、それらの語が意識的にmonied (*moneyed*) capitalと区別して使われた痕跡を見ることはできなかった。

以上、マルクスが使ったmonied capitalistというタームは、彼による造語などではなく、彼が英語圏で日常的に使われていた語を取り入れて、彼なりの独自の意味で使ったものであることが確認できた。

そこで次に、本稿が主題とするmonied capitalというタームに移ろう。

「別表II」をご覧いただきたい。これは、Google booksでmonied capitalという語を検索して把握できた1865年までの文献ないし文書を出版年の順に挙げたものである。ご覧のように、18世紀末の文献のなかにすでにmonied capitalという語が散見され、19世紀にはいるときわめてさまざまな書籍や定期刊行物のなかでこの語が使われている。なかには文学作品もある。monied capitalという語がMarxの造語どころか、Marxが経済学の研究に取りかかるはるかまえからすでに英米で広く使われていた語だったことは一目瞭然である。

2. “*monied capital* im englischn Sinn”の意味

じつは、monied capitalという語の場合、いま上で見たmonied capitalistという語の場合とはかなり異なった事情がある。というのも、この語は、「monied capitalistがもち、運用する資本」という意味で、銀行業者や金利生活者がもち、運用する資本を意味する場合のほかに、「貨幣形態にある資本」という、より広い意味あるいは、より漠然とした意味に理解されうるからである。実際に、英米での用例を見ると、そのなかには、このような意味で使われている場合が非常に多くある。たとえば、「一国のmonied capital」と言うとき、マルクスの場合であれば「一国の銀行制度のもとに集積している貸付可能な貨幣資本」という意味だと考えられるが、一般には、かなり漠然と「一国にある貨幣の形態をとっている資本」という意味で使われるであろう。しかしまた、別表での用例をよく見ると、銀行のも

とにあって貸付可能な状態にある資本を意味している場合もあることがわかる。

マルクスは『資本論』第3部草稿第5章の「5. 信用。架空資本」のうちの「I」, すなわちエンゲルス版では第28章に利用された部分の冒頭で次のように書いている¹⁷⁾。

「トゥック、ウィルスン、等々がしている、Circulationと資本との区別は（そしてこの区別をするさいに、貨幣としての流通手段と、貨幣と、貨幣資本と、利子生み資本（英語の意味でのmoneyed Capital）とのあいだの諸区別が、乱雑に混同されるのであるが []）、次の二つのことに帰着する。」（MEGA II/4.2, S.505.下線はマルクスによる強調。以下もすべて同様。）

このなかの「英語の意味でのmoneyed Capital[moneyed capital im englischen Sinn]」という句でマルクスはどういうことを考えていたのであろうか。小林氏は前記論稿で、この論稿の課題を次のように要約されている。

「この一句をどのように理解したらよいのであろうか。「英語でいう」という修飾句を、moneyed capitalという熟語全体にかけて理解すべきなのか、それとも、直接にはmoneyed一字にのみかけて理解するのが妥当なのか。前者であればこの一句は、イギリス人がmoneyed capitalという熟語を使って表わしている資本という意味となるであろうが、後者であればイギリス人が使っているmoneyedという言葉で表わされ

17) 拙稿「『流通手段と資本』（『資本論』第3部第28章）の草稿について」、『経済志林』第61巻第3号、1993年、参照。なお、ここでマルクスが、「貨幣としての流通手段と、貨幣と、貨幣資本と、利子生み資本（英語の意味でのmoneyed Capital）とのあいだの諸区別」を混同している、と批判しているその当事者として、「トゥック、ウィルスン、等々」と、トゥックを真っ先に挙げていることに注目すべきであろう。マルクスは草稿の「5. 信用。架空資本」の途中で作成した抜粋部分に「混乱[Confusion]」というタイトルをつけたが、彼が「混乱」の当事者として最も重視したのはまさにトゥックであった。このことからしても、そのマルクスが「英語の意味でのmoneyed Capital」という語の使用をトゥックから受け継いだ、と見ることはできないであろう。ただしこのことは、マルクスがトゥックを、真剣な批判に値する最良の先行者の一人と見なしていたことを否定するものではない。

ような資本という意味となり、moneyed capitalという言葉はむしろマルクスの造語ということになるであろう。」¹⁸⁾

そしてこの論稿での氏による検討の結果は、次のとおりであった。

「ここで言う「利子生み資本」とは「貨幣〔金融〕市場にある、即ち、貸付可能な資本（*das auf dem Geldmarkt befindliche, d.h. verleihbare Capital*）ないしは「貨幣資本（貨幣〔金融〕市場にある資本）〔*das Geldcapital (das Capital auf Geldmarkt)*〕」を指しているものであり、それは「英語のmoneyedという言葉で言い表せる資本」である、と。そしてマルクスはそれを、イギリス人のいうmoneyedという形容詞一文字で、容易にそして簡潔に表現することができると考え、「英語でいうmoneyedな資本」と書き添えたのであろう。」¹⁹⁾

氏はこのように、monied (moneyed) capitalはマルクスの造語だという結論をだされた。つまり氏はマルクスのこの句を、英語で言う「moneyed Capital」と読むべきではなく、「英語でいうmoneyedな」資本と読むべきだと言われているのである。はたしてそうなのであろうか。

じつは、マルクスが第3部第1稿第5章のあとに書いた第2部第2稿のなかに、このことにマルクス自身が簡潔明快に答えていると見ることができる箇所がある。そこでの以下の記述を読めば、上記の文における“moneyed capital im englischen Sinn”でマルクスが考えていたことを、誤解の余地なく明瞭に理解することができる。

マルクスは、『資本論』第2部第2稿に着筆してまもなく、「1資本の変態」の「1貨幣資本」のところで、次のように書いた。

「貨幣資本〔Geldkapital〕は自立的な資本種類ではない、——それは、過程を進行する資本価値がその循環のなかで、すなわちその変態の順序のなかでとる特殊的な諸形態のうちの一つでしかない。だからそれは、たとえば利子生み資本〔*Zinstragendes Kapital*〕のような自立的な資

18) 小林, 前出論文, 11ページ。

19) 同前, 28ページ。

本種類と混同されてはならない。」(MEGA II/11, S. 20.)

そして、この末尾に注番号をつけて脚注を書いているが、そこではまず、ジョン・レイラの『貨幣と道徳』からの次の引用が掲げられている。

「貨幣（金，銀行券，および譲渡可能な銀行信用）の総額のうちで，その一部分はつねに，……それを資本として使用する人びとの手中にある。この場合には，それは貨幣資本〔money capital〕である。」（ジョン・レイラ『貨幣と道徳』，ロンドン，1852年，7, 8ページ。）

マルクスはこれに次のようにコメントする。

「レイラ氏にとっては，自己増殖する資本の機能的形態の一つとしての貨幣資本〔Geldkapital〕(money capital) は利子生み資本等々となんの違いもないものである。けれどもイギリス人は，monied capitalという言い方でmoney capitalとは違う表現を歌いあげていて，利子生み資本等々を言うのには，この二つのうちのmonied capitalのほうだけを使うべきところなのである〔Der Engländer besingt jedoch in dem monied capital einen v. money capital verschiednen Ausdruck, wovon nur der erste für Zinstragendes Kapital u.s.w. verwendet werden sollte〕。」(a.a.O, S. 20–21.)

ここでマルクスは，「イギリス人」がmonied capitalという語をよく使っており〔besingen〕，そのさい彼らはこの語を，「自己増殖する資本の機能的形態の一つとしての貨幣資本」，すなわち資本がその循環のなかでとる形態としての貨幣資本を意味するmoney capital（すなわちGeldkapital）とは区別して，「利子生み資本等々」の意味で使っている，と述べている。

マルクスは，この第2稿にさきだって作成された，第2部で利用すべき箇所**の抜粋ノート**（エンゲルスの言う第3稿）のなかで，ここで引用されているレイラの文章を抜粋し，それに「貨幣資本〔Money Capital〕」という小見出しをつけていた（Ms. III, S. 9. この箇所は，2011年中に刊行される予定のMEGA II/4.3に収録される）。マルクスが，第3稿のこの箇所を見ながら第2稿での上の引用を書いたことは確実である。

第2部の第3稿も第2稿も、第3部第1稿ののちに書かれたものである。つまり、第3部第5章でmonied capitalという語を山ほど使ったのちに、マルクスはここで、それが「利子生み資本等々」という意味でイギリス人がbesingenしていた語であったこと、彼がそこからこの語を取って使ったことを明かしたのである。ちなみに、マルクスはこのあと『資本論』草稿のどこでも、monied capitalというタームは使っていない。ここが、彼がmonied capitalという語を使った最後の箇所なのである。

以上のところから分かるのは、マルクスが、英語圏でmonied capitalという語が使われるときに、この語が実物資本の循環形態としてのGeldkapitalあるいはmoney capitalとは区別して、「利子生み資本、等々」の意味で使われていることに注目し、英語では「利子生み資本、等々」の意味ではmoney capitalではなくmonied capitalという語を使うべきだ、と考えていた、ということである。つまりマルクスは、第3部第5章でmonied capitalという語を山ほど使ったのちに、この第2部第2稿で、この語が「利子生み資本、等々」という意味でイギリス人がよく使っていた語であったこと、彼がそこからこの語を取って使ったことを、明示的に述べたのである。

いずれにしても、monied capitalはマルクスの造語ではなく、さきの“moneyed capital im englischen Sinn”は「英語でいうmoneyedなCapital」という意味ではなくて、「イギリス人がmoneyed capitalという語で考えているもの」という意味であることが明らかになったであろう。

3. マルクス以前の経済学者によるmonied capitalという語の使用例

そこで次に、英語圏でのmonied (moneyed) capitalの用例を見ていくことにするが、最初に、マルクスが目にしたことが確かな、あるいはその可能性があると考えられる経済学者たちでのこの語の使用例を、それらを含む文献の刊行年の順に見ておこう。以下では、それぞれの場合についてこの語がどのような意味で使われているのか、ということを探ることは——特別に言及する場合を除いて——省き、どのような意味合いであれ、とに

かくこの語が使われていた, ということを確認するにとどめる。ここでは、マルクスおよびエンゲルス以外の人名はアルファベットで記す。

① William Playfair (1805)

マルクスがWilliam Playfairを知っていたことは確実である。ロンドン・ノートの第3冊(1850年)で彼はJohn Taylor: A letter to his Grace the Duke of Wellington on the Currency, London 1830から抜粋しているが, その最初の部分は「(Playfair教授によると)」として, Playfair: For the use of the enemies of England ..., London 1796からの一節が引用されている (IV/7, S.175)。また, マルクスが残した蔵書のなかにWilliam Playfair: A Letter on our Agricultural Distresses, their Causes and Remedies..., London 1821がある (IV/32, S.516)。

Playfairは, An Inquiry into the Permanent Causes of the Decline and Fall of Powerful and Wealthy Nations, London 1805のなかで, 次のように書いている。(以下, 引用のなかでのゴシック体は引用者によるもの。)

Two centuries ago, land was sold for twelve years purchase, and the rents are five times as great as they were then; 10,000*l.* employed in buying land then would now produce 5000*l.* a year. Had the same money been lent, at interest, it would but produce 500*l.* The land, too, would sell for 140,000*l.* The **monied capital** would remain what it was. (An Inquiry into the Permanent Causes of the Decline and Fall of Powerful and Wealthy Nations, London 1805. p. 130.)

When property is very unequally divided, the **monied capital** of a nation, upon the employment of which, next to its industry, its wealth, or revenue, depend, begins to be applied less advantageously. A preference is given to employments, by which money is got with most ease and certainty, though in less quantity. A preference also is given to lines of business that are reckoned the most noble and independent. (op. cit.

p.134.)

In the course of investigating the national debt of England, in the Forth Book, it will be necessary to examine this at length, but, there it will be attended with another circumstance, not one of general consideration; (as national debt is not any general or necessary appendage to a government) namely, the letting loose a great **monied capital**, which must either be employed here, or it will seek employment in another country, which may raise on the ruin of this. (op. cit. p. 168.)

② David Ricardo (1810)

Ricardoは、1810年9月6日に『モーニング・クロニクル』編集長に宛てた地金委員会報告書についての三つの手紙のうちの最初の手紙のなかで、次のように書いている。

If a merchant has a **monied capital** of 1000*l*, with which he can purchase and export 50 pieces of cloth, and if the Bank by increasing the amount of circulation medium by advances to B. and C. so affect its value as to enable A. to purchase and export with his 1000*l*. only 40 pieces of cloth, they, in fact, enable B. and C. to purchase and export the remaining 10 pieces; and if they withdraw their advances to B. and C. and thereby lessen the amount of the circulation medium, the 1000*l*. of A. will regain its original value, and he will again become the exporter of fifty pieces of cloth. (The Works and Correspondence of David Ricardo, vol. III. Cambridge 1951. pp. 133–134.)

A merchant trading with a **monied capital** has been injured by the depreciation of money, as his capital has not been equal to the same extent of business as before the depreciation; but there are few merchants in this situation: their capitals, as well as that of tradesmen, are invested in goods, ships, &c. they are rather debtors than creditors

to the rest of the community. (op. cit. p.136.)

③ Edward Wakefield (1812)

このEdward Wakefieldは、後出の“England and America”の著者のEdward Gibbon Wakefieldの父である。マルクスは、『資本論』第3部第1稿を終えたのちアイルランド問題にあらためて取り組み、この問題に関わる文献を多くの抜粋ノートに抜粋した。エンゲルスも同時期にアイルランド史を書くためにノートを作成しており、1870年4-6月以降に作成された彼の抜粋ノート第3冊のなかには、Edward Wakefield: An Account of Ireland, Statistical and Political, 2 vol, London 1870からの抜粋がある（このノートは未刊のMEGA IV/20に収録される）。彼は『アイルランド史』の準備草稿のなかでこの書に何度も言及した（MEGA I/21, S. 192-194, 196-201, 210）。この書の初版は1812年に刊行された。この初版の第2巻でWakefieldは次のように書いている。

By the issues of the national bank, the original capital of which was £60,000. four per cent. stock, subscribed for the security of the establishment. They borrowed £60,000, for a **monied capital**; the like amount was afterwards raised for the same purpose, and since that time a farther sum of £400,000. After this, £500,000. was vested in government securities; so that the actual capital of the bank, in government securities, is £1,000,000, and the **monied capital** £400,000. The bank cannot call in the money vested in government securities, although they may bring their stock to market. Their income from this source is £55,000. (An Account of Ireland, Statistical and Political, vol. 2. London 1812. pp.164-165.)

④ Thomas Jefferson (1813)

マルクスの死後に残された彼の蔵書にJefferson: Mélanges politiques et

philosophiques extraits de mémoires et de la correspondance..., Paris 1833
がある。

1813年6月24日付のJohn W. Eppes宛ての手紙で、Jeffersonは次のように
書いている。

But it will be asked, are we to have no banks? Are merchants and others
to be deprived of the resource of short accommodations, found so
convenient? I answer, let us have banks; but let them be such as are
alone to be found in any country on earth, except Great Britain. There is
not a bank of discount on the continent of Europe, (at least there was not
one when I was there,) which offers anything but cash in exchange for
discounted bills. No one has a natural right to the trade of a money
lender, but he who has the money to lend. Let those then among us, who
have a **monied capital**, and who prefer employing it in loans rather than
otherwise, set up banks, and give cash or national bills for the notes they
discount. Perhaps, to encourage them, a larger interest than is legal in
the other cases might be allowed them, on the condition of their lending
for short periods only. (The Writings of Thomas Jefferson, vol. VI. New
York 1854. p. 141.)

⑤ Thomas Robert Malthus (1817)

Malthusは、1817年10月12日付のDavid Ricardo宛ての手紙のなかで、「次の
言い方のどこがおかしいかをお示しいただけるでしょうか」と言って、
次のように書いている。

Capital is wholly employed in the purchase of materials and machinery,
and the maintenance of labour. If from any cause whatever, materials
machinery and the maintenance of the labourer, and his wages, fall
considerably in money value, is it possible that the same amount of
monied capital can be employed in the country? (The Works and

Correspondence of David Ricardo, vol VII. Cambridge 1952. p. 193.)

Ricardoはこれにたいして、1817年10月21日にMalthusに宛てて返事を書いたが、そのなかで、「次の言い方のおかしいところを示すことができるかとお尋ねです」と書いて、Malthusの上の文をそのまま引用している (op. cit. p. 200)。

⑥ John Taylor (1822)

さきにPlayfairのところで触れたように、マルクスはロンドン・ノートの第3冊(1850年)で、アメリカ人のJohn TaylorのA letter to his Grace the Duke of Wellington on the Currency, London 1830から抜粋している(MEGA IV/7, S.175)。また、ロンドン・ノートの第5冊(1851年)では、TaylorのCurrency fallacies refuted, and paper money vindicated..., London 1833から抜粋している(a. a. O., S. 379-380)。

このJohn Taylorは、Agricultural Essays, Practical and Political, 4th ed, Petersburg 1818のなかで、次のように書いている。

I meet such an insinuation by another argument. Protecting duties impoverish and enslave manufacturers themselves, and are so far from being intended to operate in their favour, or in favour of a nation, that their end and effect simply is to favour **monied capital**, which will seize upon and appropriate to itself, the whole profit of the bounty extorted from the people by protecting duties; and allow as scanty wages to its workmen, as it can. **Monied capital** drives industry without money out of the market, and forces it into its service, in every case where the object of contest is an enormous income. The wages it allows to industry are always regulated by the expense of subsistence, and not by the extent of its gain. Monied capitalists constitute an essential item of a government modelled after the English form. To advance this item, for the sake of strengthening the government against the people, and not for the sake of

manufacturers, is the object of protecting duties. (Agricultural Essays, Practical and Political. 4th ed. Petersburg 1818. p. 28.)

またTaylorは、彼のTyranny Unmasked, Washington 1822で、次のように書いている。

The English landlords have never had the assurance to assert, that their corn monopoly made bread cheaper to consumers. It has been tried much longer than our factory monopoly, and instead of making bread cheaper, has increased rents and enriched landlords at the expense of bread consumers. Our factories have asserted, that their monopoly would make manufactures cheaper. —But after a considerable trial, its effects are found to correspond with those of other monopolies. It has only enriched capitalists and impoverished other occupations. The Committee admit that our **moneyed capitals** have increased even more rapidly than English rents; that they have grown up to an exuberance which cannot find employment. The English landlords do not complain of an exuberance of rents, nor crave an extension of their monopoly for its employment. The enormous growth of individual capitals, and the pecuniary depression of all other interests do not sustain the hope of the Committee, that a factory monopoly will be “a general and equal protection of national industry.” (Tyranny Unmasked. Washington 1822. pp. 144–145.)

⑦ Thomas Tooke (1826)

大友氏がさきに触れた二つの論稿で立ち入って紹介されているように、Tookeは、1826年に刊行した彼のConsiderations on the State of the Currency, London 1826のなかで、それまでも多くの人びとが使っていたmonied capitalという語を、独自の意味をもたせて、繰り返して使った。この語はTookeのこの書（第2版）²⁰⁾の10–13, 15–18, 23, 26, 63, 83, 161, 164

ページに登場している。

さらにTookeは、1838年刊行の彼の“A History of Prices...”の第2巻のAppendixに、monied capitalについて触れた部分を10ページにわたって再録しており、このなかには約20回、この語がでてくる。また、このあとには“Appendix C”として、1838年4月10日にJames PenningtonがTookeに宛てた手紙を収めているが、このなかでPenningtonはTookeのmonied capital概念についてコメントしており、そのなかにこの語は8回でてくる。

マルクスはこの“A History of Prices...”のまさにこの箇所を、第3部第1稿第5章の第3節（エンゲルスが第23章に利用した部分）のはじめのところに引用した。しかしマルクスはすでに、マンチェスター・ノートの第2冊でConsiderationsの第2版を抜粋しており（MEGA IV/4, S.139-141）、しかもそのなかにはmonied capitalという語が含まれていたのである（S.140）。Tookeのこの箇所は、マルクスのmonied（moneyed）capitalという語の使用という見地から見て、きわめて重要な意味をもっている。というのも、筆者がこれまでの探索でつかんだかぎりでは、マンチェスター・ノートの第2冊（1845年）で抜粋されたこの箇所に含まれているmonied capitalが、マルクスの書き残した文書のなかで最も早く登場したものだと思うられるからである。（ただし、MEGAに収録された抜粋ノートのこれ以前のすべてにこの語がないとしても、失われている抜粋ノートがあるのだから、この箇所が最初だったと断定できるわけではない。）

20) Considerationsの初版は1826年に、1月28日付のAdvertisementをつけて刊行されたが、刊行直後に議会在1829年以降5ポンド以下の地方銀行券の流通を禁止するという議決を行なったことを受けて、Tookeはすぐに、若干の脚注と「あとがき」とを追加したと記載した2月22日付の短いAdvertisementを扉のまえに挿入して第2版を出した。実際には、いずれもかなり長い7個の脚注が追加されたほか、脚注への書き加えが行なわれ、またごくわずかな些細なものであるが本文にも手が増えられている。削除は行なわれていない。上で挙げているページのうち最後のp.161およびp.164は第2版で追加された「あとがき〔Postscript〕」のなかのものであるが、第2版に見られるそれ以外のすべてのmonied capitalという語はすでに初版にあったものである。

⑧ Thomas Chalmers (1832)

マルクスはThomas Chalmersの著書から抜粋し、それを繰り返して引用し、また彼に言及した。マルクスはChalmersに、一言で言えば、ごりごりのマルサス主義者という評価を与えて、しばしば軽蔑的に言及したが、ただ彼は、ChalmersのOn Political Economy in Connexion with the Moral State and Moral Prospects..., London 1832のなかの次の箇所を、注目に価するものとして繰り返して抜粋ないし引用した。最初はロンドン・ノートの第9冊（1851年; MEGA IV/8, S. 581）、次に『経済学批判要綱』（MEGA II/1, S. 490）、それから『1861-1863年草稿』（MEGA II/3.1, S. 89-90）、そして最後に、『資本論』第2部第3稿（Ms. S. 10〔未刊のMEGA II/4.3に収録される〕）である。以前のものを引き写すさいに、そのたびにあちこちで細かい違いが生じることになっているが、ここでは、マルクスが『資本論』第2部の第3稿で抜粋したもの（ドイツ語とその略字も混じっている）を掲げておこう。

The real metallic money for which a merchant has any use, does not amount to more than a small fraction of his capital, even of his *monied capital*; all of which, though estimated in money, can be made, on the strength of written contracts, to describe its orbit, and be effective for all its purposes with the aid of coin ... amounting to an insignificant fraction of the whole. The great object of the *monied capitalist*, in fact, is to *add to the nominal amount of his fortune*. It is that, if expressed pecuniarily this year by 20,000£ z.B., it should be expressed pecuniarily next year 24,000 £. To *advance his capital, as estimated in money*, is the only way in which he can advance his interest as a merchant. D. importance dieser objects wird nicht für ihn afficirt durch fluctuations in the currency or by a change in the real value of money. Z.B. in einem Jahr komme er v. 20 auf 24,000l., durch einen Fall im Werth d. Geldes mag er nicht have increased his command über d. comforts etc. Dennoch eben so sehr sein

Interesse als wenn d. Geld nicht gefallen wäre; denn sonst, his monied fortune would have remained stationary u. s. real wealth would have declined in the proportion of 24 to 20... commodities also nicht d. terminating object of the trading capitalist, außer im Verausgaben seiner Revenue in Ausgaben f. d. sake of consumption. *In the outlay of his capital, and when he purchases for the sake of production, money is his terminating object.* (Thomas Chalmers: On Political Economy in Connexion with the Moral State and Moral Prospects... London 1832. p. 164-166.)

Chalmersのこの記述にマルクスが注目した理由は、『経済学批判要綱』でこの箇所を——最初の一文を除いて——引用するさいに、その直前にマルクスが次のように書いているところから読み取ることができる。

「われわれはまえに、資本の概念を展開するさいに、資本が、流通のなかで自己を維持するとともに、生きた労働との交換を介して自己を増大させる価値そのもの、貨幣である次第を、それゆえ、生産する資本の目的は使用価値ではけっしてなく、富としての富の一般的形態であることを、説明した。Th. チャームズ坊主は、彼の著作『経済学について、社会の精神状態および精神的展望に関連して』、第2版、ロンドン、1832年、のなかで——これ以外の点では多くの面から見てばかげた不愉快な著作であるが——、この点を正しく言いあてており、そのさい他方では、資本の価値としての貨幣と実体的に現存する金属貨幣とを混同しているフェリエ等々のような奴らの愚かさにはおちいっていない。恐慌のときには、現存している流通手段が少なすぎるから資本（商品としてのの）が交換不可能であるのではなくて、資本が交換可能でないから流通手段が流通しないのである。恐慌のときに現金貨幣が重要性をもつようになるのは、もっぱら次のことに由来している。すなわち、一方では、資本がその価値と交換できない——またそれゆえにのみ、価値が資本に対立して貨幣の形態で固定化して現われる——のに、他方では、債務が支払

われなければならず、中断した流通とならんで一種の強制流通が生じる、ということである。」(MEGA II/1, S.489-490.)

⑨ Peter Gaskell (1833)

マルクスはロンドン・ノートの第11冊(1851年)でPeter Gaskell: The Manufacturing Population of England, London 1833の新版であるThe Moral and Physical Condition of the Manufacturing Population... London 1836から抜粋している(MEGA IV/9, S.104-109, 113-116)。

前者のなかでGaskellは次のように書いている。

It is quite obvious that occurrences of this nature, so detrimental to the interests of the men on the one hand, and the masters on the other, must lead to the adoption of some measures having for their intention the equalization or protection of both against the caprice, avariciousness, and unreasonable and untimely demands. Unfortunately, each party made their own arrangements. The men under the belief that they were all powerful, and the masters in self-defence, with the farther understanding that they would assist each other. On both sides funds were collected, delegates and secretaries appointed, and labour and **monied capital** came into direct collision. (The Manufacturing Population of England. London 1833. p.298.)

⑩ Edward Gibbon Wakefield (1833)

マルクスがEdward Gibbon Wakefield: England and America..., in 2 vols., London 1833をしばしば引用し、またこれに言及したことはよく知られているであろう。『経済学批判要綱』、『1861-1863年草稿』、『資本論』第1部でこの書から引用している。マルクスはWakefieldのこの書から1863年作成のサブノートHに抜粋している(Beiheft H, S. 15-31, 34 [このノートは現在編集集中のMEGA IV/17に収録される])。このノートでの抜粋の範囲は、

この書第1巻の13-247ページ、第2巻の5-192ページにわたっている。マルクスのこの抜粋のなかには含まれていないが、Wakefieldは第2巻の47-48ページで、

The following passage from an article in the *Times* newspaper on the late dispute between South Carolina and the United States, describes fully the opinions which are prevalent in England on the subject of the American tariff.

と、まえおきしたうえで、Timesから次の部分で始まる長い引用を行なっている。

“All political writers in this country have visited with censure the present policy of the American general government in attempting by high protecting duties to force the establishment, or to encourage the extension, of manufactures in the United States. With the high price for labour that exists in the United States, with their scanty supply of **monied capital**, with their unlimited range of uncultivated or half improved soil, it was almost *a crime against society* to divert human industry from the fields and the forests to iron forges and cotton factories.” (England and America..., vol. II. London 1833. pp. 47-48.)

このmonied capitalという語はWakefieldではなくて新聞Timesによるものであるが、マルクスはこの前の45ページから抜粋し、次に49ページから抜粋しているので、マルクスがTimesのこの記事を読んだことは確実である。

⑪ James William Gilbart (1834)

マルクスはJames William Gilbart: The History and Principles of Banking. London 1834を丁寧に読んだようで、彼の抜粋ノートに繰り返して抜粋している。マンチェスター・ノートの第2冊（1845年）では、二度この書の抜粋を行なっていて、抜粋された箇所はこの書のほとんど全ページにわた

っている。しかも、そのなかには、Gilbartがmonied capitalという語を使った次の箇所が含まれている（MEGA IV/4, S.159, 32-33行）。さきに、TookeのConsiderationsからの抜粋にmonied capitalという語が含まれていて、それが——筆者がこれまでにつかみえたかぎりで判断すると——マルクスの最初の使用例だろう、と書いたが、それがノート第2冊の30ページであったのにたいして、Gilbartからのこの抜粋は同じノートの37ページにある。つまりマルクスはこのノートのなかのごく間近なところで、TookeとGilbartとによるmonied capitalの用例を書きとめていたのである。さらに彼は、ノートBullion. Das vollendete Geldsystem（1851年）にもGilbartのこの書を（ただし、この書の31-39ページの範囲だけ）抜粋している（MEGA IV/8, S. 24-27）。

It has been the opinion of most of our political economists, that the rate of interest is regulated by the rate of profit. This sentiment has, however, been attacked. It has been contended, that the rate of interest is not influenced by the average rate of profit, but by the quantity of **monied capital** in the market, compared with the wants of the borrowers. In other words, that the price of money is influenced by the proportion between the demand and the supply. (The History and Principles of Banking, London 1834. p. 166.)

マルクスはまた、Gilbart: The History of Banking in America..., London 1837をロンドン・ノート第7冊（1851年）に抜粋している。このなかには、monied capitalという語があるこの書の111ページからの抜粋もある（マルクスの抜粋部分にはこの語は含まれていない）。ただし、ここは、GilbartがPresident of the Bank of the United StatesのBiddleによる記述から引用している箇所である。その箇所は次のとおりである。

“The currency of the United States consists of coin, and of bank notes promising to pay coin. As long as the bank can always pay the coin they promise, they are useful; because, in a country where the **monied capital**

is disproportioned to the means of employing capital, the substitution of credits for coins enables the nation to make its exchanges with less coin, and of course saves the expense of that coin.” (The History of Banking in America... London 1837. p. 111.)

⑫ Nassau William Senior (1836)

マルクスはNassau William Senior: An Outline of the Science of Political Economy, London 1836に、『資本論』とその準備草稿のなかでしばしば——嘲笑しつつ——言及し、抜粋ノートでもほかの著者の文献に引用されているところを抜粋したりしているが、この書物から直接に抜粋したのは、『経済学批判要綱』を含む7冊のノートの第7冊（第2表紙に*Heft VII* “(Polit. Econ. Criticism of) (Fortsetzung.) *London*. Ende February. March” と書かれているノート）のうち、『要綱』のあとに書かれている1859年から1863年にかけての抜粋ノート（S.136-140）のなかである（ノート第7冊のこの部分は、未刊のMEGA IV/15に収録されるが、筆者は未見である）。マルクスがこのOutlineを読んだのはほとんど確実であるが、その最終のパラグラフに*monied capital*という語が登場している。

The transfer of *Capital* from one Country to another is subject to less difficulty. When the exchange is at par between any two Countries, Capital can be transmitted in the shape of money without any expense. And as the occasional loss which occurs when the exchange is against the Country to which it is to be exported is compensated by the occasional gain when it is in favour of that Country, it may fairly be said that **monied Capital** is transferred from Country to Country without expense. (An Outline of the Science of Political Economy. London 1836. p. 225.).

⑬ John Stuart Mill (1848)

いわゆる『ミル評注』でも知られているように、マルクスは早くからJohn

Steuart Millに関心を寄せ、*Essays on Some Unsettled Questions of Political Economy*, London 1844から大部の抜粋を行なったが、次いで*Principles of Political Economy*..., London 1848からも抜粋を行なった。ただ、彼からの最初の抜粋を含むいわゆる『小ノート』は失われていて、どこが抜粋されていたのかを知ることができない。その次には、ロンドン・ノートの第1冊（1850年）、しかもその最初にこの書からの抜粋があるが、その範囲は、*Principles*の全5篇のうちの第2篇だけ、しかも、各章の表題のあとにわずかのコメントを書いた、MEGA版で4ページの短いものである（MEGA IV/7, S. 39-41）。これ以外に*Principles*からの抜粋はないようであるが、マルクスがこれを全部読みとおした可能性は十分にあらう。

Millは*Principles*の第5篇第10章§2で、monied capitalという語を含む、次のパラグラフを書いている。

In so far as the motive of the restriction may be supposed to be, not public policy, but regard for the interest of the borrower, it would be difficult to point out any case in which such tenderness on the legislator's part is more misplaced. A person of sane mind, and of the age at which persons are legally competent to conduct their own concerns, must be presumed to be a sufficient guardian of his pecuniary interests. If he may sell an estate, or grant a release, or assign away all his property, without control from the law, it seems very unnecessary that the only bargain which he cannot make without its intermeddling, should be a loan of money. The law seems to presume that the money-lender, dealing with necessitous persons, can take advantage of their necessities, and exact conditions limited only by his own pleasure. It might be so if there were only one money-lender within reach. But when there is the whole **monied capital** of a wealthy community to resort to, no borrower is placed under any disadvantage in the market merely by the urgency of his need. If he cannot borrow at the interest paid by other people, it must be because he

cannot give such good security; and competition will limit the extra demand to a fair equivalent for the risk of his proving insolvent. Though the law intends favour to the borrower, it is to him above all that injustice is, in this case, done by it. What can be more unjust than that a person who cannot give perfectly good security, should be prevented from borrowing of persons who are willing to lend money to him, by their not being permitted to receive the rate of interest which would be a just equivalent for their risk? Through the mistaken kindness of the law, he must either go without the money which is perhaps necessary to save him from much greater losses, or be driven to expedients of a far more ruinous description, which the law either has not found it possible, or has not happened, to interdict. (Principles of Political Economy... London 1848. pp. 491–492.)

⑭ Robert Torrens (1848)

Robert Torrensは、The Principles and Practical Operation of Sir R. Peel's Bill of 1844..., London 1848で、Tooke, FullartonおよびWilsonを批判した。Tookeへの批判のなかで彼は、Tookeの“A History of Prices...”から、monied capitalという語を含む引用を行なっている (p.101, 107, 108, 113)。

マルクスはロンドン・ノートの第2冊（1850年）でTorrensのこの書からの抜粋を行なっているが、それはちょうどTorrensがTookeの上のmonied capitalを含む箇所 (p.106) から引用した部分であった (MEGA IV/7, S. 108–109)。だから、このときマルクスが、ふたたびTookeのmonied capitalに出会っていたことはまちがいない。

⑮ Francis William Newman (1851)

マルクスは、『資本論』およびその草稿のなかでFrancis William Newman: Lectures on Political Economy, London 1851を引用したり、それに言及し

たりした。とくに興味深いのは、脚注などでNewmanの名を書き付けただけの場合がかなり多いことである。これは、Newmanのこの書については、それぞれの論点についてどこにどのように書かれていたのか、あとで調べて書き付けようとしていたのだと考えられる。『要綱』、『1861-1863年草稿』、『資本論』第3部第1稿、『資本論』第1部に引用があり、また言及されている。マルクスはロンドン・ノート第21冊（1853年）の16-22ページにこの書を抜粋している（このノートは未刊のMEGA IV/11に収録されるが、筆者はまだこの書からの引用箇所を確認できていない）。

Newmanはこの書の次の箇所でmoneyed Capitalという語を使っている。マルクスが目にしていただ可能性はきわめて高い。

The same development of trade so enriched many individuals, as to excite a great coveting after land; and so many wealthy persons have been found to offer large prices to the little freeholders, that they have not been able to resist the bait. They have converted their land into **moneyed capital**, and gone to swell the ranks of traders. At any rate, they have not been plundered; and if there has been a fault it is their own. (Lectures on Political Economy. London 1851. p. 336.)

⑩ John Lalor (1852)

前節で、マルクスが『資本論』第2部第3稿でJohn Lalor: Money and Morals: A Book for the Times, London 1852を抜粋し、それを利用して第2部第2稿でそれに言及したことを述べた。再掲しよう。

The Government loans not only did not diminish, but enormously increased the aggregate stock of **monied capital**, and there was also a great increase, though not a corresponding increase, in the stocks of commodities, on account of the stimulus given to industry. (Money and Morals. London 1852. p. 53.)

マルクスはすでに同書から、さきに触れた『要綱』が書かれた最後の第

7冊のあとの抜粋ノートの部分でLalorのこの書を抜粋していた（MEGA IV/15収録予定、筆者は未見）。1859年のこの時点でマルクスがLalorのこの書を見ていたことはまちがいない。

⑰ John Cazenove (1853)

マルクスは, Thomas Robert Malthus: Definitions in Political Economy..., の1827年に刊行されたその初版だけでなく, John Cazenove編の1853年刊のその新版もよく使った。とくに, この版のためにCazenoveが加えたnotesを読み, そこからの抜粋や引用を行なった。たとえば、『資本論』第1部ではこの版を使い, Cazenoveによるnotesを引用している。マルクスは, 1859年から1860年にかけて, それ以前の抜粋ノートからさらに抜粋を行なった「引用ノート [Zitatenheft]」を作成した（未刊のMEGA IV/15に収録されるが、筆者は未見）。このノートにも, Definitionsの旧版だけでなく新版も抜粋されており, このノートの索引である「引用ノートへの索引」（1860年1-2月にHeft B'に書かれた）では, Cazenoveのnoteへの指示がある（MEGA II/2, S. 267）。

マルクスは『資本論』第1部初版で, 「1) 資本主義的蓄積」の「a) 単純再生産」のなかの脚注で, 資本の蓄積に関するMalthusのDefinition 18へのCazenoveのnoteから, “When capital is employed in *advancing* to the workman his wages, *it adds nothing* to the funds for the maintenance of labour.” (Definitions in Political Economy..., London 1853. p. 22) という文を引用している（MEGA II/5, S. 459）が, Cazenoveはこれにすぐ続く, MalthusのDefinition 22へのnoteで次のように書いている。マルクスがこれを目にしなかったはずがない。

Accumulation is here defined to be the *employment* of revenue as capital. But accumulations frequently take place, and in very large masses too *anterior* to such employment. This is a circumstance which calls for especial notice as important consequences flow from it. It gives rise to

transactions between two distinct sets of persons, viz., the *lenders* of capital who receive an interest for it, and the *borrowers* who pay that are both made and loaned out in the shape of money, the term ***monied capital*** is commonly employed to express them. (Thomas Robert Malthus: Definitions in Political Economy..., London 1853. p. 23.)

以上、monied (moneyed) capitalという語を含む、マルクスが読んだことが確実な、あるいは読んだ可能性がある彼への先行文献を見てきた。すでに、マルクスが『資本論』第3部第5章に着手する以前に彼が、経済学者たちの文献についてだけでも、monied (moneyed) capitalという語を含むいかに多くの文献に接していたか、しかもこの語を含むいかに多くの文献を抜粋していたか、ということが明らかになったであろう。

そうだとすれば、これ以上の探索はもう無用のようなものだが、さらに駄目押しの、以上の経済学者以外に、『資本論』第3部第5章以前にmonied (moneyed) capitalという語を使っている文書を若干挙げておくことにしよう。

4. 議会報告書におけるmonied capitalという語の使用例

「はじめに」のところで小林氏の論稿に触れたさいにすでに見たように、マルクスは第3部第5章で、『商業的窮境。1847-48年』での、1848年2月11日の証人喚問におけるHodgesの証言のさいに質問者Clayがその質問のなかでmonied capitalという語を使った箇所を、ロンドン・ノートの第7冊(1851年)に抜粋していた(MEGA IV/8, S. 251)。小林氏も書いておられるように、マルクスはこの抜粋ノートを使いながら、『資本論』第3部第1稿第5章第5節「信用。架空資本」のⅢで、次の二つの問答からの引用を行った(MEGA II/4.2, S.532)。質問者はClayで証人がHodgsonである。

464. Are the committee right in assuming that you would attribute that pressure to the real diminution of the **monied capital** on the country?—

Yes.

466. You would assume, then, that the diminution of that **money capital** of the country arose partly from the necessity of paying in gold for imports from all parts of the world, and partly from the absorption of floating into fixed capital for the construction on railways?—Quite so. (First Report from the secret committee on commercial distress... London 1848. p. 39.)

同じHodgsonの証言のもっと前のほうで、Clayが質問のなかで *monied capital* という語を使っていた²¹⁾。マルクスはこの部分は抜粋しなかった。

437. Do you conceive that, apart from the panic, from whatever cause superinduced, there was a want of **monied capital** in the country in general, as indicated by diminution in deposits?—I think unquestionably so. (op. cit.p. 38.)

444. Did it occur to the directors of your bank, that from this apparent diminution of **monied capital** the Bank of England might possibly be under the necessity of limiting at all events the accommodation afforded upon that which you have called your general account with them?—No, it never occurred to us at all. (op.cit.)

このほかにも、イングランドないしアイルランドの議会での審議のなかで *monied* (*moneyed*) *capital* という語が使われている例があるので、挙げておこう。

① House of Commons of Ireland (1786)

アイルランド議会の下院での1786年2月10日の委員会の議事録のなかに、次の記述がある。

Mr. *John Wolfe* presented a petition of Robert Brooke, of the town of

21) 小林氏は、前出の著書『マルクス「信用論」の解明』ではこの箇所にも言及されている（同書、360ページ）。

Prosperous, in the county of Kildare, setting forth that ...; that the employ of that multitude necessitated the extension of the manufacture, augmented the necessary quantity of dead stock, and thus creating a disproportion between the active and inactive capital, obliged the petitioner, by new loans, to encrease the former; that under these circumstances a partnership with men of large **monied capital** appeared the simplest means of obtaining that encrease; that such partners were found, but that the final settlement of the partnership occasioned an examination into the nature and operation of the two recognizances which had been entered into by him; ... (The Parliamentary Register: or, History of the Proceedings and Debates of the House of Commons of Ireland, The Third Session of the Fourth Parliament in the Reign of his Present Majesty, vol. VI. Dublin 1786. pp. 129-130.)

これによって、18世紀の議会ですでにmonied capitalという語が使われていたことが確認できる。

② 4th Session on the 18th Parliament of Great Britain (1800)

イングランド議会で1800年2月18日に、下院議長であったCharles Abbotが諸種の公的記録の拡大、保管および保護を検討するための特別委員会を設置すべきという動議を提出し、採択されたが、そのさいの演説のなかでAbbotは次のように述べている。

But as a measure of state policy it was demonstrably clear, that whatever establishes security and good faith between man and man in transactions respecting landed property, tends to facilitate the reciprocal exchange and conversion of the landed and **monied capital**; and the giving to capital an increased activity will necessarily increase its total amount. (The Parliamentary History of England, from the Earliest Period to the Year 1803, vol. 34. London 1819. p. 1464.)

③ House of Lords of Ireland (1804)

アイルランド議会上院の1804年4月14日に行なわれた証人喚問でアイルランド銀行のWilliam Colvilleが、銀行設立のさいの資本とファンドとを問われたのにたいして、次のように答えている。

Upon what Fund did the Bank begin? —£.600,000 4 per Cent Stock, which was subscribed for the Security of the Public; and the Bank borrowed £.60,000 for a **monied Capital**, and did afterwards add several Sums, making in the whole £.120,000, all borrowed. Some Years afterwards there was subscribed £.400,000 in Money, to add to the trading Capital; and after that £.500,000, vested in Government Securities, for the Benefit of the Public, so that the actual Capital of the Bank, in Government Securities, is £.1,100,000 and the **monied Capital** £.400,000; the £.1,100,000, so vested in Government Securities, it is not in the Power of the Bank to alienate, and they receive one Annuity for it of £.55,000 per annum. (House of Lords: The Sessional Papers 1801–1833, vol. X (1803–1804). Dublin 1804. p. 96.—From: 29th Report of the Commissioners of Account of Ireland.)

これはまことに注目に価する記述である。1804年の時点ですでに、銀行の当事者自身が、monied capitalという語で、のちにGilbartによってbanking capitalと呼ばれる銀行業資本を表現したことが分かるからである。

④ House of Commons (1821)

1821年4月9日にイングランド議会下院でBank Cash Payment Billの継続審議が行なわれ、Alexander Baringの修正案をめぐる討論が行なわれた。これにはRicardoも参加し、採決の結果、この修正案は否決された²²⁾。この討論のなかでRicardoおよびHudson Gurneyの発言に続いて、Edward Ellice

22) この法案の審議経過については、The Works and Correspondence of David Ricardo, vol. V, p.91-92, 97, 105, 107を参照。

が発言したが³、そのなかにmonied capitalの語が含まれている。

And when once principle was departed from, the security of property, and the best interests of the country, must take their unequal chance in the general confusion. One of the most baneful consequences, first of the vast creation of **monied capital** by the paper system; and secondly, of the great comparative depreciation of all other property, was, the increased influence of the monied interests on the institution and government of the country. (The Parliamentary Debates: forming a continuation of the work entitled “The Parliamentary History of England from the Earliest Period to the Year 1803.” Published under the superintendence of T.C. Hansard. New Series. Vol. V. London 1822. p. 143.)

⑤ **Select Committee on the Affairs of the East India Company (1832)**

イングランド議会下院が設置した、東インド会社事件についての特別委員会の証言録では、1832年4月12日の証人喚問でJohn Malcolmが証言したが、そのなかでmonied capitalという語を使っている。

The capital of Baroda itself has become, from various causes, and in some degree no doubt from the protection which our guarantee arrangements afforded to the monied men who were the creditors of the prince, one of the richest cities in point of commercial and **monied capital** that I know of its extent in India. (The Sessional Papers Printed by Order of the House of Lords, or Presented by Royal Command, in the Session 1852–1853, vol. 39. Minutes of Evidence taken before the Select Committee on the Affairs of the East India Company, VI. Political or Foreign, Ordered to be printed 20th August 1853. p. 31.)

⑥ **House of Lords (1845)**

イングランド議会上院で1845年6月9日にCompensation to Tenants

(Ireland) Billの審議の第1読会でLord Stanleyが発言したが、そのなかで monied capital という語を3回使った。

I do not mean to deny that the great bulk of those tenants are men in exceedingly penurious circumstances, having no **monied capital**; but then there are, nevertheless, some of them who are in possession of some of money that would surprise many of your Lordships to hear stated, knowing the habits of the occupying tenants of England... Then, my Lords, I say, there is an amount of **monied capital** amongst the occupying tenants of Ireland; but that capital which they have in superabundance, undoubtedly, and which might be beneficially employed in improving their holdings, is, if not their **monied capital**, their personal industry, which is now, in a great measure, locked up and lying dormant, and which I now call upon your Lordships to invite the tenantry of Ireland to apply to the cultivation and improvement of the lands upon which they are settled. (Hansard's Parliamentary Debates: Third Series, vol. LXXXI. London 1845. pp. 215-216.)

以上の例示によって、19世紀前半までのイングランドおよびアイルランドの議会での発言のなかで monied capital の語が使われたケースのうち、たまたま今回の検索にひっかかったものだけでもこれだけある、ということが確認されれば十分である²³⁾。

23) この機会に、以前の拙稿のなかで議会報告書について記した部分のなかの誤りを訂正しておきたい。第3部第1稿第5章の「混乱」および「[混乱。続き]」を取り扱った拙稿「『信用制度下の流通手段』および「通貨原理と銀行立法」の草稿について」、『経済志林』第67巻第2号、1990年、の「1. 「混乱」および「[混乱。続き]」の概要」のなかで、「商業的窮境委員会報告」についての三宅義夫氏の解説を引用したのちに、筆者は次のように書いた。

「したがって、本稿での「商業的窮境委員会報告」は、1847年の恐慌について設置された上院および下院の二つの委員会のうちの下院委員会の報告である。上院委員会報告は、第5章5)のⅢ)までのところで、「商業的窮境1847-1848年」としてその証言が利用されているが、「混乱」および「[混乱。続き]」ではこれからの引用もこれへの言及もない。」

5. 教科書ないし辞典におけるmonied capitalの説明

1850年代から1860年代にかけて、次の三つの英語そのものの語学書のなかにmoneyed Capitalという語が登場している。そのころ、この程度にまでこの語が人びとの口の端ににのぼっていたことをよく示しているものとして興味深い。

① G. F. Burckhardt und J. M. Jost: Ausführliches theoretisch-praktisches Lehrbuch der Englischen Sprache, 4. Auflage, Bd. 2, Leipzig 1853.

本書はドイツ人のための英語教程で、英語を多角的に紹介している。このなかの Sammlung von Ausdrücken für besondere Gesammtheitenでは、Eisenbahn-Ausdrückeのなかで、Betriebs-Capitalに関する英語として次のものを挙げている。rolling stock, circulating oder moveable capital, **moneyed capital**, carrying stock, letzteres für alle Transportmittel jedes Fuhrwesens. (S. 71.)

② Christoph Friedrich Grieb: A Dictionary of the German and English Languages..., 6th ed., vol. II, German and English, Stuttgart 1863.

この独英辞典のGeldという見出し語のもとで, Kapital in Geldという小見出しに対応する英語としてmoneyed Capitalを挙げている (S.351)。

③ Henry Hamilton et E. Legros: Dictionnaire international français-anglais, Paris 1868.

この記述は、三宅氏の解説のなかで述べられている、下院委員会および上院委員会の二つの委員会の報告書があることと、下院委員会の報告書に第1報告書と第2報告書があることという、この二つの区別を粗雑に誤読して、後者の区別を前者の区別と取り違えたものである。このあとに収めた草稿の訳文を見ればすぐ分かることであるが、実際には、「混乱」および「[混乱。続き]」で抜粋されている商業的窮境委員会報告は、上院委員会報告だけで、下院委員会報告はまったく抜粋されていないのである。誤りを訂正して、拙稿の読者にお詫びする。

この仏英辞典のcapitalという見出し語のなかのCapitaux en numéraireという小見出しに対応する英語としてmoneyed Capitalを挙げている(p.151)。

6. その他の出版物におけるmoniedcapitalの使用例

以上のほか、「別表Ⅱ」を見れば、monied capitalという語に、18世紀の文献から今日の文献にいたるまで、驚くほど多数の使用文献における用例があることが分かる。さまざまな定期刊行物や文学作品にもこれらの語が登場している。

注目に値するのは、18世紀末に活躍したアメリカのAlexander Hamiltonがすでに1790-1791年にこの語を頻繁に使っていたことである。彼はmoneyed Capitalという語を、“State Papers and Speeches on the Tariff”所収の“Report on the Subject of Manufactures”(1790)のなかで2回、“The Works of Alexander Hamilton”, vol. 2所収の“The First Report on Public Credit”(1790)のなかで4回、同巻所収の“Objections and answers respecting the administration of the government”(1790)で2回、同書vol. 3所収の“Loans”(1793)で1回、同巻所収の“Letter of Hamilton to Robert Morris, April 30, 1781”で3回、同書vol. 4所収の“Manufactures”(1791)で2回、計14回使っているのである。

7. マルクスにおけるmonied capitalの意味

以上見てきたように、マルクスはmonied capitalという語を、彼が目にしてきたきわめて多くの文献で使われているのを見ており、それを彼の利子生み資本論のなかで借用したのであったが、それでは彼は、自家薬籠中のものにしたこのmonied capitalという語を、どのような意味で使ったのであろうか。

『資本論』第3部草稿の第5章では、monied capitalという語は、はじめに、利子生み資本の概念を言い表わす英語の語として登場したのち、その次には、「信用制度のもとでの利子生み資本」という、より具体的な形態に

ある利子生み資本を意味する語として使われるようになる。なぜ、同じ monied capital という語がこのような二重の語義をもつことになっているのか、このことを明確につかむためには、この章でマルクスが行なった、利子生み資本の分析と展開の方法をつかむことが肝要である。

マルクスは、先行する第4章の末尾の近くで、貨幣取扱資本を概念的に把握した。これは、一方では、それまでに得られていた産業資本および商品取扱資本の概念を前提し、他方では、信用制度のもとでの monied capital、具体的には銀行資本の運動を表象に思い浮かべ、そこから、貨幣の貸借によって利子を取得する利子生み資本という側面を度外視して、信用制度のもとでの monied capital に含まれている貨幣取扱資本という独自の資本形態を純粹に抽出し、この形態を分析することによって行なわれた²⁴⁾。

第5章に進むと、一方では、それまでに得られた産業資本および、貨幣取扱資本をふくむ商業資本の概念を前提し、他方では、貨幣取扱資本の分析のさいと同じく、信用制度のもとでの monied capital の運動を表象に思い浮かべながら、しかし今度は、そこから、貨幣取扱資本の側面を度外視し、またさらに、信用制度下の利子生み資本が取っている具体的な諸姿態を度外視することによって、monied capital の最も本質的な規定である利子生み資本を概念的に把握することになる。これによって抽出されたのは、生産的資本とその人格化としての生産的資本家、機能資本家、能動的資本家と、利子生み資本とその人格化としての monied capitalist との関係である。マルクスは次のように言う。

「生産資本家に monied capitalist の階級が特殊的種類の資本家として対立し、monied capital が資本の一つの自立的形態として対立し、利子がこの

24) 前出の脚注1で触れたように、Marxは23冊のノート（『1861-1863年草稿』）では、ノートXVで利子生み資本を論じたのち、ノートXV-XIIIで銀行業を取り扱って貨幣取扱資本に論及したが、そのさいには、こうした論述の順序に規定されて、貨幣取扱資本を、銀行が管理する利子生み資本から分離して論じることができなかった。『資本論』ではMarxは、まず貨幣取扱資本を純粹に分離して概念的に把握し、次にこんどは利子生み資本を純粹に分離して概念的に把握する、という方法によって、以前の記述の難点を克服したのである。

独自の資本に対応する自立的な剰余価値形態として対立する」²⁵⁾。

この関係だけを前提して、第5章の第1節から第4節まで、エンゲルス版第21章から第24章までのところで、利子生み資本が概念的に把握される。ここでもすでに繰り返してmonied capitalという語が使われているが、しかし形態規定としての利子生み資本を純粹に取り出して分析するこの範囲では、それはまだ、利子生み資本を表現する英語の語として登場しているだけである。

第5章の第5節「信用。架空資本」にはいると、今度は、貨幣取扱資本と利子生み資本の概念を前提して、信用制度下で具体的な姿態を取っている利子生み資本の分析が始まる。ここでも、信用制度のもとでのmonied capitalの運動が表象に思い浮かべられるが、ここではいよいよ、利子生み資本の具体的な姿態であるmonied capitalというこの資本そのものの分析が課題である。

この分析は、まず、monied capitalが活躍する場となる舞台装置、すなわち信用・銀行制度を観察して、それがどのようなものか（エンゲルス版第25章）、そしてそれは資本主義的生産にとってどのような意義をもつのか（エンゲルス版第27章）、ということを確認することから始められる。

マルクスは、草稿第5節の最初のほう（エンゲルス版第25章）で、銀行制度のもつ、「利子生み資本あるいはmonied capitalの管理」という側面について、次のように言う。

「一般的に表現すれば、銀行業者の業務は、一方では、貸付可能なmonied capitalを自分の手中に大規模に集中することにより、したがって個々の貸し手に代わって銀行業者がすべての貨幣の貸し手の代表者として再生産的資本家に相対するようになる。彼らはmonied capitalの一般的な管理者としてそれを自分の手中に集中する。他方では、彼らは、商業世界全体のために借りるということによって、すべての貸し手に対して借り手

25) MEGA, II/4.2, S. 448. 拙稿「利子と企業者利得」（『資本論』第3部第23章）の草稿について、『経済志林』第57巻第1号、1989年、81ページ。

を集中する」²⁶⁾。

そしてこれ以降、monied capitalという語は、圧倒的に、「商業世界全体のために」、銀行業者の手中に集中された貸付可能な貨幣資本、銀行によって管理されている利子生み資本、を意味するタームとして使われることになる。

すなわち、この序論的論述²⁷⁾のあと、信用制度という舞台のうえで繰り広げられるmonied capitalの活動を対象とする、IからIIIまでの、とくにそのIII（エンゲルス版第30-32章）での本論が続くのであるが、ここで運動するmonied capitalは、媒介者としての銀行に集中している「貸付可能資本」という形態をとっている。この語における「貸付可能」とは、たんに貸し付けられることができる、という意味ではない。それは、「利子を生むものとなるべく予定されている資本」²⁸⁾、「有利な投下を求めている遊休しているmonied capital」²⁹⁾、「貸付として自由に使用できるmonied capital」³⁰⁾として、しかもこの形態において一般的社会的な性格をもった資本として、貨幣市場での生産的資本からの需要に相対するものなのである。

IIIで分析されている、real capitalに対するmonied capitalとは、この貸付可能資本にはかならない。ここでの利子生み資本は、たんに貸し手としてのmonied capitalistと借り手としての生産的資本家との関係のなかにある

26) a. a. O., S. 471. 拙稿「『信用と架空資本』（『資本論』第3部第25章の草稿について（中））, 『経済志林』第51巻第3号, 1983年, 13ページ。

27) この序論的論述の末尾（エンゲルス版第27章の終り近く）でマルクスは次のように言う。「これまでわれわれは主として信用制度の発展 {そしてそれに含まれている資本所有の潜在的な廃棄を主として生産的資本に関連して考察した。いまわれわれは、利子生み資本そのもの {信用制度による利子生み資本への影響, ならびに利子生み資本がとる形態} の考察に移る……。」(a. a. O., S. 504-505. 拙稿「『資本主義の生産における信用の役割』（『資本論』第3部第27章）の草稿について」, 『経済志林』第52巻第3・4号, 1985年, (43)-(44) ページ。引用中の { } は草稿では大きめの角括弧。)

ここで「利子生み資本そのものの考察」と呼ばれているのが信用制度下の利子生み資本すなわちmonied capitalの考察である。

28) a. a. O., S. 531. 拙稿「『貨幣資本と現実資本』（『資本論』第3部第30-32章）の草稿について」, 『経済志林』第64巻第4号, 1997年, 153ページ。

29) a. a. O., S. 541. 拙稿, 同前, 190ページ。

30) a. a. O., S. 556. 拙稿, 同前, 244ページ。

のではなく、媒介者としての銀行³¹⁾を中心に、生産的資本家や貸付資本家を含む「本来のmonied capitalist」、さらに賃労働者までも含むあらゆる階級が遊休貨幣、遊休貨幣資本をこの媒介者に委ねるさいの資本形態であり、またこれによって形成された貸付可能資本が、貨幣市場を通じて、媒介者としての銀行から生産的資本に委ねられるさいの資本形態でもある。「Tookeは社会各層の貨幣資本の所有者の手許に存在する遊休貨幣をmonied capitalと呼び、それが貸付可能な資本となることを示した……にすぎなかった」³²⁾のにたいして、マルクスは、monied capitalの運動が、貨幣市場を通じて、real capitalが運動する社会的再生産過程とどのようにかわるのか、ということ、real capitalの現実的運動形態である産業循環に即して解明したのであった。

マルクスは、このように、社会的再生産過程におけるreal capitalまたは生産的資本の運動が必然的に生み出す信用制度と、そのもとでのmonied capitalの独自の運動を、そしてまたそれによる社会的再生産過程への影響を、第5章第5節で分析した。

monied capitalという語をこのようなタームと理解するなら、全体として「利子生み資本の分析」を課題とする第3部第5章のなかで、マルクスは、第1の部分ではこのmonied capitalの資本としての本質的な形態規定である利子生み資本を概念的に把握し、第2の部分では、信用制度下の利子生み資本という具体的形態にあるこのmonied capitalそのものを研究した、ということもできるであろう³³⁾。

31) この媒介者としての銀行の自己資本すなわち本来の銀行資本は、たんなる利子生み資本ではない。それは、わずかな自己資本をはるかに凌駕する他人資本すなわち銀行業資本を利子生み資本として運動させることによって取得した利子と、利子生み資本家としての預金者に支払う利子との差額である利鞘、および、貨幣取扱業務によって取得する手数料、を利潤とする資本であり、貨幣取扱資本の側面をもつ独自の資本である。マルクスが、信用制度下の利子生み資本すなわちmonied capitalの分析に着手する前に、まず貨幣取扱資本を、次に利子生み資本を、それぞれ純粋な形態でとらえて概念的に把握しておかなければならなかった所以である。

32) 前出、大友敏明「Monied Capitalの蓄積について」、52ページ。

付言すれば、さきに触れた、第2部第2稿での、「利子生み資本、等々を言うのにはmonied capitalのほうを使うべきところだ」とマルクスが言ったとき、彼が「利子生み資本」に「等々〔u.s.w.〕」という語をつけ加えたのは、monied capitalという語が、利子生み資本一般を意味するだけでなく、加えて、利子生み資本が信用制度のもとで取っているさまざまな具体的諸形態をも含みうることを念頭においていたものと考えられる。

ところで、ここでもう一度、さきに触れたmonied capitalistという語に戻ろう。第3部第5章の利子生み資本論のうちの理論的展開の部分が、さらに、利子生み資本の概念的把握と、信用制度下の利子生み資本であるmonied capitalの分析との二つの部分からなっているのだとすると、このなかで、monied capitalistのほうはどのような意味をもつタームとして使われているのか。

まず、第1の、利子生み資本の概念的把握の部分では、monied capitalistは、生産的資本家すなわち機能資本家に、利子の取得を目的に貨幣を貸し出す一切の当事者のことを指している。つまり、ここでは、金利生活者を含む貸付資本家であろうと、遊休貨幣資本を銀行に預金する生産的資本家であろうと、また貸出業務によって利子を稼ぐ銀行業者であろうと、すべてmonied capitalistという規定性において一括されている。すなわち、文字どおり、利子生み資本の人格化である。

第2の、信用制度下の利子生み資本であるmonied capitalの分析にはいると、monied capitalistという語は、いったん、「媒介的役割〔Mittlerschaft〕」を果たす銀行と区別して、銀行に預金をする資本家一般を指す語としても

33) 念のために記しておくが、Marxによるmonied capitalの使用例のなかにも、この語がたんに、貨幣形態にある資本という意味で使われている場合もある。たとえば、次のように。「彼の資本が投下の出発点でmonied capitalとして存在していようと、彼がそれをこれからやっとなmonied capitalに転化させなければならないものであろうと、彼がそれを利子生み資本として貸し付けるか、それとも生産資本として自分で増殖するかは、彼の勝手である。」(MEGA, II/4.2, S. 448. 拙稿「利子と企業者利得」(『資本論』第3部第23章)の草稿について、『経済志林』第57巻第1号、82-83ページ。)

使われる。すなわち「本来のmonied capitalist」である³⁴⁾。

しかし、言うまでもなく、銀行自身も、利子生み資本の人格化として、貨幣市場で生産的資本家にmonied capitalistとして対している。すなわち社会的再生産の見地から見れば、銀行は依然として、monied capitalistという規定性を担う者なのである。マルクスは次のように言っている。

「一方では、生産的資本家の資本は彼自身によって「貯蓄」されるのではなくて、彼は自分の資本の大きさに比例して他人の貯蓄を自由にするのであり、他方では、monied Capitalistは他人の貯蓄を自分の「資本」にし、また、再生産的資本家たちが互いに与え合う信用や公衆が彼らに与える信用を自分の私的な致富源泉にするのである。資本は節儉と労働との生みの子だという資本主義的システムの最後の幻想も、これでだめになってしまう。利潤が他人の労働の取得であるばかりではなくて、この他人の労働を搾取するための資本も「他人の」所有物からなっているのであって、この他人の所有物をmonied Capitalistが生産的資本家に自由に使わせ、そのかわりに前者がこれはまたこれで後者を搾取するのである」³⁵⁾。

ここには、マルクスにしてはじめて到達できた、monied capitalの人格化としてのmonied capitalistの深い理論的把握が見られると言ってよいであろう。

おわりに

以上、本稿ではまず、『資本論』第3部第1稿の第5章第5節「信用。架空資本」でマルクスが、信用制度のもとでの利子生み資本の具体的な存在形態として分析の対象とした資本をmonied capitalという語で呼んだのは、

34) MEGA, II/4.2, S. 472. 拙稿「「信用と架空資本」(『資本論』第3部第25章)の草稿について(中)」、『経済志林』第51巻第3号, 16ページ。

35) a. a. O., S. 587. 拙稿「「貨幣資本と現実資本」(『資本論』第3部第30-32章)の草稿について」、『経済志林』第64巻第4号, 266-267ページ。

当時のイギリス（およびアメリカ）で「実務的にも理論的にもごく普通に用いられている語を意識的にそのまま使ったもの」であって、マルクスの造語などではない、ということを具体例を使って挙証した。マルクスは、先行の経済学者の文献のなかでだけでなく、新聞や雑誌や文学作品などあちこちでmonied capitalという語に出会っていたにちがいない、そのうえでこの語について、「イギリス人は、monied capitalという言い方でmoney capitalとは違う表現を歌いあげていて、利子生み資本等々を言うのには、この二つのうちのmonied capitalのほうだけを使うべきところなのだ」という語感をもっていたのである。

そのうえで、マルクス自身は『資本論』第3部第5章でこの語をどのように使ったのか、ということについて、筆者のこれまでの分析にもとづいて略説した。筆者はこれまでに、マルクスが『1861-1863年草稿』で本格的に開始して、『資本論』第3部第1稿第5章で引き継ぎ、一応の理論的な展開を行なった記述にまでまとめた、monied capitalの研究の深化の過程について何度か概観したし、また、草稿第5章での論述のすべてを翻訳して、若干の研究を行ってきた。さらに、今回の探索によって、monied capitalというタームの上流を訪ねることができただけでなく、マルクスが彼の理論的展開のなかで確定して使用した多くの概念が、彼以前にすでに使われていた諸タームを加工したものであることをあらためて確認することができた。本稿では触れなかったが、「利子生み資本」しかり、「貸付可能資本」しかり、等々である。

それにしても、もしマルクスが自分で『資本論』第3部のドイツ語版を仕上げることができたとしたら、草稿でいたるところで使ったmonied capitalというこの英語を、エンゲルスがそうしたように、なんらかのドイツ語に置き換えなければならなかったのではないかと考えられる。その場合、マルクスはどのような処理をしたのだろうか、これについて確たることを推測させるような手がかりは見あたらない。したがって、エンゲルスの処理、すなわちマルクスのmonied capitalを「貸付資本」、「貸付可能資本」、

「貨幣資本」などとした処理がどの程度適切であったのか、ということについても、確定的な判断をくだすことはできない。さきにも触れたように、マルクスは、さきに触れた第2部第2稿での脚注でmonied capitalという語を記したのち、その後はmonied capitalという語をまったく使っていないのである。

なお、本稿での研究では、Google booksという新たな強力な武器が威力を発揮したが、同時に、マルクスのきわめて多数の抜粋ノートの調査が不可欠であった。マルクスの抜粋ノートを収録するMEGAの第4部門は、これまでにその全32巻のうちの12巻が刊行されただけで、残りの20巻は未刊のままである。筆者も未見の重要な抜粋ノートがいくつもある。日本MEGA編集委員会の全国グループは、第IV部門の第17・18・19巻の三つの巻の編集作業を引き受けていて、いまは第18巻の編集を進めているが、この作業を完成させることの重要性を痛感する。また、国際マルクス＝エンゲルス財団による、未刊の諸巻の編集・刊行が、途中で打ち切られることなく、順調に進行することを期待したい。

(2011年1月31日)

付記:本研究は、2007-2009年度科学研究費補助金基盤研究B「マルクス抜粋ノートの編集とその活用による『資本論』形成史研究の新段階の開拓」(研究代表者:平子友長)の助成による研究の一部であり、同研究の報告書(2010年3月)所収の拙稿「マルクスが使ったmonied capitalという語の上流に遡る」を拡充したものである。

文献

- 小林賢齊. 2006. 「「英語でいうmoneyedなCapital」について——『資本論』第III部第28章冒頭部分再考——」『武蔵大学論集』53(3・4)
- . 2008. 「解題:「唯一困難な問題」について——手稿「信用。架空資本」に即して——」『武蔵大学論集』55(3)
- . 2010. 『マルクス「信用論」の解明——その成立史的視座から——』, 八潮社

- 三宅義夫. 1974. 『マルクス・エンゲルス／イギリス恐慌史論』上, 大月書店
- 大谷禎之介. 1984. 「信用と架空資本」(『資本論』第3部第25章)の草稿について(下)『経済志林』51(4)
- 一. 1985. 「資本主義的生産における信用の役割」(『資本論』第3部第27章)の草稿について, 『経済志林』52(3・4)
- 一. 1989. 「利子と企業者利得」(『資本論』第3部第23章)の草稿について, 『経済志林』57(1)
- 一. 1990. 「信用制度下の流通手段」および「通貨原理と銀行立法」の草稿について『経済志林』67(2)
- 一. 1993. 「流通手段と資本」(『資本論』第3部第28章)の草稿について『経済志林』61(3)
- 一. 1997. 「貨幣資本と現実資本」(『資本論』第3部第30-32章)の草稿について『経済志林』64(4)
- 一. 2000. 「『資本論』の著述プランと利子・信用論」『経済志林』68(1)
- 一. 2005. 「マルクスの利子生み資本論」『経済志林』72(4)
- 大友敏明. 2005. 「投機と信用——1825年恐慌とフリーバンキング学派——」『山梨大学教育人間科学学部紀要』7(2)
- 一. 2009. 「*Monied Capital*の蓄積について—トーマス・トゥックと匿名氏の『通貨理論論評』—」『経済学史研究』51(1)

Anonymous. 1845. *Currency Theory Reviewed*.

Burckhardt, G. F. und J. M. Jost. 1853. *Ausführliches theoretisch-praktisches Lehrbuch der Englischen Sprache*, 4. Auflage, Bd. 2. Leipzig.

Chalmers, Thomas. 1832. *On Political Economy in Connexion with the Moral State and Moral Prospects of Society*. London.

—. 1833. *On Political Economy: in Connecting with the Moral State and Moral Prospects of Society*, 2nd American ed., Columbus.

De Quincey, Thomas. 1844. *The Logic of Political Economy*. Edinburgh & London.

—. 1859. *The Logic of Political Economy, and Other Papers*, Boston.

Engels, Friedrich. 1870. Exzerptheft III. In: *Marx-Engels Gesamtausgabe* (MEGA^②), IV/20. (In Vorbereitung.)

—. 1870. Entwurf der Kapitel „Naturbedingungen“ und „Altirland“ des Buches über die Geschichte Irlands. In: *Marx-Engels Gesamtausgabe* (MEGA^②), I/21. Berlin, 2009.

- Gaskell, Peter. 1833. *The Manufacturing Population of England*. London.
- . 1836. *The Moral and Physical Condition of the Manufacturing Population*. London.
- Gilbart, James William. *The History and Principles of Banking*. London.
- . 1837. *The History of Banking in America*... London.
- Grieb, Christoph Friedrich. 1863. *A Dictionary of the German and English Languages*... 6th ed., vol. II: German and English. Stuttgart.
- Hamilton, Alexander. 1790. "Report on the Subject of Manufactures." In: *State Papers and Speeches on the Tariff*.
- . 1790. "The First Report on Public Credit." In: *The Works of Alexander Hamilton*, vol. 2.
- . 1790. "Objections and answers respecting the administration of the government." In: *The Works of Alexander Hamilton*, vol. 2.
- . 1793. "Loans." In: *The Works of Alexander Hamilton*, vol. 3.
- . 1781. "Letter of Hamilton to Robert Morris, April 30, 1781." In: *The Works of Alexander Hamilton*, vol. 3.
- . 1791. "Manufactures." In: *The Works of Alexander Hamilton*, vol. 4.
- Hamilton, Henry et E. Legros. 1868. *Dictionnaire international français-anglais*. Paris.
- Jefferson, Thomas. 1833. *Mélanges politiques et philosophiques extraits de mémoires et de la correspondance*... Paris.
- . 1854. *The Writings of Thomas Jefferson*, vol. VI. New York.
- Lalor, John. 1852. *Money and Morals: A Book for the Times*. London.
- Malthus, Thomas Robert. 1827. *Definitions in Political Economy*... London.
- . 1853. *Definitions in Political Economy*... A new ed., with a pref., notes, and suppl. remarks by John Cazenove. London.
- . 1817. "Letter of Malthus to David Ricardo, October 12, 1817." In: *The Works and Correspondence of David Ricardo*, vol VII. Cambridge 1952.
- Marx, Karl. 1857/1858. Grundrisse der Kritik der politischen Ökonomie. In: *Marx-Engels Gesamtausgabe* (MEGA[®]) II/1. Berlin 1976.
- . 1860. Verzeichniß zu dem Citatenheft. In: *Marx-Engels Gesamtausgabe* (MEGA[®]), II/2. Berlin, 1980.
- . 1861–1863. Zur Kritik der politischen Ökonomie (Manuskript 1861–1863). In: *Marx-Engels Gesamtausgabe* (MEGA[®]), II/3. Berlin, 1976–1982.
- . 1863–1865. Das Kapital (Ökonomisches Manuskript 1863–1865). Buch III.

- In: *Marx-Engels Gesamtausgabe* (MEGA^②), II/4.2. Berlin, 1992.
- . 1867. *Das Kapital. Kritik der politischen Ökonomie*, Bd. 1. Hamburg. In: *Marx-Engels Gesamtausgabe* (MEGA^②), II/5. Berlin, 1983.
 - . 1867/1868. Das Manuskript III des II. Buches des „Kapitals“. In: *Marx-Engels Gesamtausgabe* (MEGA^②), II/4.3. (In Vorbereitung.).
 - . 1868–1870. Das Kapital 〈Ökonomisches Manuskript 1868–1870〉. Zweites Buch: Der Zirkulationsprozess des Kapitals (Manuskript II) In: *Marx-Engels Gesamtausgabe* (MEGA^②), II/11. Berlin, 2008.
 - . 1845. Manchester Hefte 1845. Heft 2. In: *Marx-Engels Gesamtausgabe* (MEGA^②), IV/4. Berlin, 1988.
 - . 1850. Londoner Hefte 1850–1853. Heft I. In: *Marx-Engels Gesamtausgabe* (MEGA^②), IV/7. Berlin, 1983.
 - . 1850. Londoner Hefte 1850–1853. Heft II. In: *Marx-Engels Gesamtausgabe* (MEGA^②), IV/7. Berlin, 1983.
 - . 1850. Londoner Hefte 1850–1853. Heft III. In: *Marx-Engels Gesamtausgabe* (MEGA^②), IV/7. Berlin, 1983.
 - . 1851. Londoner Hefte 1850–1853. Heft V. In: *Marx-Engels Gesamtausgabe* (MEGA^②), IV/7. Berlin, 1983.
 - . 1851. Bullion. Das vollendete Geldsystem. In: *Marx-Engels Gesamtausgabe* (MEGA^②), IV/8. Berlin, 1983.
 - . 1851. Londoner Hefte 1850–1853. Heft VII. In: *Marx-Engels Gesamtausgabe* (MEGA^②), IV/8. Berlin, 1983.
 - . 1851. Londoner Hefte 1850–1853. Heft IX. In: *Marx-Engels Gesamtausgabe* (MEGA^②), IV/8. Berlin, 1986.
 - . 1851. Londoner Hefte 1850–1853. Heft XI. In: *Marx-Engels Gesamtausgabe* (MEGA^②), IV/9. Berlin, 1991.
 - . 1853. Londoner Hefte 1850–1853. Heft XXI. In: *Marx-Engels Gesamtausgabe* (MEGA^②), IV/11. (In Vorbereitung.)
 - . 1859–1860. Zitatenheft. 1859–1860. In: *Marx-Engels Gesamtausgabe* (MEGA^②), IV/15. (In Vorbereitung.)
 - . 1859–1863. *Heft VII* “(Polit. Econ. Criticism of) (Fortsetzung.) London. Ende February. March”. In: *Marx-Engels Gesamtausgabe* (MEGA^②), IV/15. (In Vorbereitung.)
 - . 1863. Beiheft H. In: *Marx-Engels Gesamtausgabe* (MEGA^②), IV/17. (In Vorbereitung.)

- Mill, John Steuart. 1844. *Essays on Some Unsettled Questions of Political Economy*. London.
- . 1848. *Principles of Political Economy*... London.
- Newman, Francis William. 1851. *Lectures on Political Economy*. London.
- Playfair, William. 1796. *For the Use of the Enemies of England*... London.
- . 1821. *A Letter on our Agricultural Distresses, their Causes and Remedies*... London.
- Ricardo, David. 1851. "Report of the Bullion Committee." (The first Letter to the *Morning Chronicle* on the Bullion Report, 1810.) In: *The Works and Correspondence of David Ricardo*, vol. III. Cambridge 1951.
- . 1817. "Letter of Malthus to David Ricardo, October 12, 1817." In: *The Works and Correspondence of David Ricardo*, vol VII. Cambridge 1952.
- . 1817. "Letter of Ricardo to Thomas Robert Malthus, October 21, 1817." In: *The Works and Correspondence of David Ricardo*, vol VII. Cambridge 1952.
- Senior, Nassau William. 1836. *An Outline of the Science of Political Economy*. London.
- Tailor, John. 1818. *Agricultural Essays, Practical and Political*. 4th ed. Petersburg.
- . 1822. *Tyranny Unmasked*. Washington.
- . 1830. *A letter to his Grace the Duke of Wellington on the Currency*. London.
- . 1833. *Currency Fallacies Rrefuted, and Paper Money Vindicated*... London.
- Tooke, Thomas. 1826. *Considerations on the State of the Currency*. 1. ed. London.
- . 1826. *Considerations on the State of the Currency*. 2. ed. London.
- . 1838. *A History of Prices, and of the State of the Circulation, from 1793 to 1837*, vol. II. London.
- Torrens, Robert. 1848. *The Principles and Practical Operation of Sir R. Peel's Bill of 1844*... London.
- Wakefield, Edward. 1812. *An Account of Ireland, Statistical and Political*, vol. 2. London.
- . 1870. *An Account of Ireland, Statistical and Political*, in 2 vols. London.
- Wakefield, Edward Gibbon. 1833. *England and America*..., in 2 vols. London.
- First Report from the secret committee on commercial distress*... London 1848.
- The Parliamentary Register: or, History of the Proceedings and Debates of the House of Commons of Ireland, The Third Session of the Fourth Parliament in*

the Reign of his Present Majesty, vol. VI. Dublin 1786.

The Parliamentary History of England, from the Earliest Period to the Year 1803,
vol. 34. London 1819

House of Lords: *The Sessional Papers 1801–1833*, vol. X (1803–4). Dublin 1804.

*The Parliamentary Debates: forming a continuation of the work entitled “The
Parliamentary History of England from the Earliest Period to the Year 1803.”*

Published under the superintendence of T. C. Hansard. New Series. Vol.
V. London 1822

*The Sessional Papers Printed by Order of the House of Lords, or Presented by Royal
Command, in the Session 1852–3*, vol. 39. Minutes of Evidence taken before
the Select Committee on the Affairs of the East India Company, VI.
Political or Foreign, Ordered to be printed 20th August 1853.

Hansard’s Parliamentary Debates: Third Series, vol. LXXXI. London 1845.

別表 I : 1860年代中葉までの英米における monied (moneyed) capitalist の用例

1. 本表は、Google booksの検索機能を使ってmonied capitalistおよびmoneyed capitalistという語を検索した結果を一覧表に加工したものである。
2. マルクスが『資本論』第3部第5章を執筆した1865年までの文献に限定した。
3. 文献の刊行年の順に並べ、最左欄に刊行年を記した。その他の欄は、Google booksでの検索結果をそのまま掲げてある。なお、同じページに最右欄に記載された用例のほかにも別の用例がある場合があり、また、この語があるほかのページがある場合もあるが、それらをつつひとつ拾うことはなかった。気付いたOCRによる誤認識は訂正した。
4. 刊行年のうち、イタリックにしたのはアメリカで刊行された文献である。
5. 念のために付言するが、第2欄で見出しとなっているものは簡略化されているので、当該文献のなかにはこの見出しとは別の文書が含まれていて、最右欄での用例がこの別文書のなかのものである場合もあり、また、最右欄での用例は、第3欄に記載されている人物の手によるものではなく、引用文中のものである可能性もあるので、注意されたい。

| | | | |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1791 | The Bee, or literary intelligencer, vol. 3—p. 88 | | ... commerce of books, gave utility and importance to its conductors; they speedily became to authors, what the monied capitalist is to the manufacturer. ... |
| 1792 | Vindiciae gallicae: Defence of the French revolution and its English ... —p. 160 | Sir James Mackintosh | ... once tasted the indolence and authority of a land-holder, will with difficulty return to the comparative servility and drudgery of a monied capitalist |
| 1796 | The Edinburgh magazine, or Literary miscellany—p. 359 | | Internal canals form, perhaps, the most solid basis on which a monied capitalist can speculate. It is difficult to say to what pitch of convenience to the ... |
| 1797 | The Monthly review, vol. 22 —p. 371 | Ralph Griffiths | It is unreasonable to suppose that the effects of good government, and the accumulations of industry, are confined to enriching the monied capitalist and ... |
| 1811 | The American register, or general repository of history, politics and vol. 7 —p. 74 | Charles Brockden Brown, Robert Walsh | That so much only shall be given for them by the monied capitalist as shall enable him to speculate on the unwary. The six millions of profit will not ... |
| 1814 | The Historical register of the United States —p. 127 | Thomas H. Palmer | A monied capitalist will always pursue his interest. In deciding this question, the calculation will be made on peace or war. No prudent man will loan his ... |
| 1814 | General report of the agricultural state: and political circumstances, of ...—p. 265 | Board of Agriculture (Great Britain), Sir John Sinclair | There seems no reason why a monied capitalist should scruple to lend his money to be launched out in feasible schemes of profitable agricultural ... |
| 1814 | The Edinburgh review, vol. 48, no. 95—p. 448 | | ... either by the consumers in an augmented price, or by the landlord in a diminished rent, or by the monied capitalist in a diminished rate of interest. But ... |
| 1815 | The Tradesman, vol. 14 —p. 354 | | The landholder and the monied capitalist , unless the latter trades with his capital, are each of them receiving an income without their employment of ... |
| 1815 | A pat from the lion's paw, inflicted in the name of common sense, upon the ...—p. 10 | Leo (Britannicus, pseud.) | For the tax will fall ultimately, not upon the consumer, but upon the Rent of Land and the interest of money — on the landed and monied Capitalist ; — i. e. ... |
| 1817 | A letter on the distresses of the country: addressed to his royal highness ... —p. 26 | John Ashton Yates | ... the manufacturer, the banker, the farmer, and the monied capitalist , who all had placed a false dependence on one another, are whelmed in common ruin. ... |
| 1818 | The Pamphleteer, vol. 11 —p. 370 | Abraham John Valpy | ... his amusements by any direct protection afforded to game as property, and would be placed upon the same footing with the townsman or monied capitalist |
| 1819 | The population and riches of nations: considered together, not only with ... —p. 143 | Sir Egerton Brydges | It is said, that, while the Landed Capitalist is enriched, the Monied Capitalist is deteriorated. And what is the consequence ? The Landed Capitalist in ... |
| 1819 | A comparative estimate of the effects which a continuance and a removal of ...—p. 67 | Robert Torrens | ... compel the monied capitalist , and banker, to restrict their discounts, and thus deprive the merchant of the accustomed accommodation on which he ... |

| | | | |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1821 | An essay on the production of wealth—p. 419 | Robert Torrens | On every occasion of glut or stagnation, the monied capitalist will not only get a greater quantity of commodities for the same given sum in cash, ... |
| 1822 | Niles' national register: containing political, historical, geographical ... —p. 138 | Hezekiah Niles, William Ogden Niles, Jeremiah Hughes, George Beatty | ... moneyed capitalist escape its operation. Owing to that clause in the constitution which compels congress to apportion direct taxes according to the ... |
| 1822 | Considerations on the present state of the country in respect to income and ... —p. 21 | Professional gentleman of Edinburgh, Robert Banks Jenkinson Liverpool (Earl of) | restricted in the same proportion, and of course there will be a deficiency in the produce of, the taxes, and then the stock-holder and monied capitalist ... |
| 1823 | Thoughts and details on the high and low prices of the last thirty ... , vol. 2 —p. 15 | Thomas Tooke | Supposing the whole returns to capital to remain the same, a diminishing proportion might go as the net profit to the monied capitalist , and an increasing ... |
| 1823 | Niles' national register: containing political, historical ... , vol. 23 —p. 309 | Hezekiah Niles, William Ogden Niles, Jeremiah Hughes, George Beatty | ... to adopt the most efficient means to check the progress of such a dangerous usurpation of power, so much calculated to enrich the monied capitalist , ... |
| 1823 | The Farmers Magazine —p. 170 | Hurst, Robinson, and Company | But as, according to the foregoing calculation, the value of the income of the monied capitalist , or his power of purchasing, is increased from 100 to 166 2/3, ... |
| 1824 | Letters in defence of the Hartford Convention, and the people of Massachusetts —p. 91 | Harrison Gray Otis | It is certainly not a correct view of the social compact, to assume, that in a time of public distress, the monied capitalist is under any peculiar ... |
| 1824 | The Westminster Review. Volume II. July–October, 1824 —p. 28 | The Westminster Review. Volume II. July–October, 1824 | We have seen landed proprietors without rents; farmers and manufacturers without a market; the monied capitalist ready to lend, and the merchant not ... |
| 1825 | Notes to assist the memory in various sciences [by W. Hamilton]. —p. 79 | Walter Hamilton (M. R.A.S.) | ... be replaced by the consumers in the advanced price, or by the landholder in diminished rent, or by the monied capitalist in diminished rate of interest. ... |
| 1826 | A letter to ... Robert Peel ... upon the necessity of adopting some ... —p. 76 | | Although, to a large monied capitalist , it may not have been worth while to lock up available, convertible, floating, stock, for a profit of six per cent, ... |
| 1828 | A manual of political economy: with particular reference to the institutions ... —p. 65 | Willard Phillips | The effect therefore is to restrain the circulation of this particular species of property, and deprive the monied capitalist of the profits of his capital, ... |
| 1829 | The New-Brunswick religious and literary journal, vol. 1–2 —p. 287 | | No rank but that of the mere jobber the broker, the monied capitalist , is prospering, and their prosperity is erected on the depression of the rest of the ... |
| 1830 | Blackwood's magazine, vol. 27 —p. 349 | | When it comes into the hands of the monied capitalist , it is laid out in a way which reproduces nothing: it is expended upon mere consumers; upon cooks, ... |
| 1830 | The Law magazine: or Quarterly review of jurisprudence, vol. 1 —p. 258 | | A separation thus took place of the tradesman and the monied capitalist , and the receiving of deposits and advancing of money on security, which the latter ... |
| 1830 | Mercantile cases: Reports of cases relating to commerce, manufactures ... , vol. 1 —p. 30 | Frederick Maxwell Danson, J. H. Lloyd | Blandy V. Allan. it may be said that such a power is necessary for the benefit of the merchant as well as the protection of the monied capitalist |
| 1830 | Reports of cases argued and determined in the Supreme Court of Alabama, vol. 1 —p. 117 | Alabama. Supreme Court, George Noble Stewart | Then we must suppose that the Legislature intended this law for good, and calculated not merely to benefit the monied capitalist , but to keep in the country ... |
| 1832 | On political economy in connexion with the moral state and moral prospects ... —p. 165 | Thomas Chalmers | The great object of the monied capitalist , in fact, is to add to the nominal amount of his fortune. It is that, if expressed pecuniarily this year by twenty ... |
| 1833 | On political economy: in connexion with the moral state and moral prospects ... —p. 134 | Thomas Chalmers | The great object of the moneyed capitalist , in fact, is to add to the nominal amount of his fortune. It is that, if expressed pecuniarily this year by ... |

| | | | |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1832 | Register of debates in Congress: comprising the leading debates and ...—p. 3367 | United States. Congress, Joseph Gales, William Winston Seaton | The moneyed capitalist , who consumes but a small can be established that the barrel of flour and the bale of part of his income, and who always calculates ... |
| 1833 | Fraser's magazine —p. 108 | | The freedom, in truth, of which the advocates of "Free Trade" are most fond, is that which enables the monied capitalist , the rich man, to encourage the ... |
| 1833 | Fraser's magazine —p. 613 | | It is constantly the moneyed capitalist , the annuitant, the drones of society, that command the support of the Westminster Review; while ... |
| 1833 | The manufacturing population of England: its moral, social, and physical ... —p. 291 | P. Gaskell | labour is their capital; the fund upon which they live, and that they have the same right to turn it to the utmost advantage as any monied capitalist has ... |
| 1833 | Tait's Edinburgh magazine, vol. 2 — p. 807 | William Tait, Christian Isobel Johnstone | Farther, if the rents of the proprietors of lands, houses, and shops are reduced; if the interest of the monied capitalist is lessened, these wealthy ... |
| 1833 | An appeal to the landed, manufacturing, trading, and professional interests ... —p. 16 | Edward Daniel | ... was of course complied with and adopted in order to double the property of the fund-owner and monied capitalist at the loss of debtors: because avarice ... |
| 1833 | Letterpress The Crisis; or, The change from error and misery to truth and ... —p. 188 | Crisis and national co-operative trades' union gazette | Remember that it is the manufacturing and monied capitalist who is the most urgent for the repeal of the corn laws, because he expects to be the gainer; ... |
| 1834 | Public documents printed by order of the senate of the United States —p. 82 | | ... will bring the laborer, the farmer, the mechanic, and the manufacturer, in subjection to the moneyed capitalist and cold-blooded, relentless usurer. ... |
| 1834 | the Register of Debates —p. 595 | | ... and ruin upon all classes excepting the rich moneyed capitalist and the salaried office holder. They were read, referred, and ordered to be printed. ... |
| 1834 | Congressional serial set —p. 150 | United States, Government Printing Office | ... that the more active and dependant classes of society are reduced to idleness and want, while a rich market is furnished to the moneyed capitalist , ... |
| 1834 | The Poor man's guardian, vol. 3 —p. 466 | | We do not accuse the monied capitalist of intentional robbery. To do this, would be unjust as it would be malignant. Where there is no evil design there ... |
| 1834 | The Mirror of Parliament for the ... session of the ... Parliament of ..., vol. 1 —p. 850 | John Henry Barrow | Now I will set the monied interest which must be understood to mean the agricultural capitalist, as well as the monied capitalist , in opposition ... |
| 1834 | The Monthly repository —p. 583 | Leigh Hunt | ... as the club-houses were originally founded; the next is as a speculation of profit, or of good investment to the monied capitalist |
| 1834 | A treatise on internal intercourse and communication in civilised states ... —p. 117 | Thomas Grahame | Chiefly to the monied capitalist , whose funds are employed to build the machine which supplants the animal power. The evil falls on the working classes ... |
| 1834 | Theory of the constitution compared with its practice in ancient and modern ... —p. 452 | James Bernard Bernard | ... is depriving him of employment and subsistence, and when the whole advantage of it is exclusively reaped by the monied capitalist and public consumer. ... |
| 1835 | Essay on the rate of wages: with an examination of the causes of the ... —p. 23 | Henry Charles Carey | The moneyed capitalist of India receives enormous profits, while the smaller capitalist, who cultivates a few acres, has barely sufficient to support a ... |
| 1835 | Philanthropic economy: or, The philosophy of happiness, practically applied ... —p. 86 | Mrs. Loudon (Margracia) | Literally, an operative and moneyed capitalist united. Her limited territory being but a small garden for the accommodation of her own family, she has, ... |
| 1835 | Annual Meeting of the American Institute of Instruction: proceedings ..., vol. 5 —p. 28 | | ... would come to naught; and of course under such circumstances, when destruction did but lay the weight of her hand upon the moneyed capitalist , ... |
| 1835 | Colonization of South Australia —p. 93 | Robert Torrens | It would be difficult to conceive, and perhaps impossible to discover, any species of investment more beneficial to the monied capitalist than the early ... |

| | | | |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1835 | History of England: From the death of George the Second in 1760 : A, vol. 18 —p. 118 | David Hume, Tobias George Smollett, Thomas S. Hughes | ... and seeking to make a provision for their families, ought not to pay in the same proportion as landed and monied capitalist who were already secured ... |
| 1835 | Three letters addressed to ... viscount Melbourne and ... sir Robert Peel ... —p. 46 | Thomas Wallace (1st baron.) | ... it is urged upon the statesman, the legislator, the land-owners, inheritors, tenants with valuable interests in their lands, the monied capitalist , ... |
| 1838 | A history of prices, and of the state of the circulation, from 1793 to 1837 ... —p. 357 | Thomas Tooke, William Newmarch | Supposing the whole returns to capital to remain the same, a diminishing proportion might go as the net profit to the monied capitalist , and an increasing ... |
| 1839 | A treatise on the industry of nations, or: The principles of national ... —p. 422 | Joseph Salway Eisdell | ... as a rise in the value of money, and gives the monied capitalist a greater command over the necessities and conveniences of life. But this is not all. ... |
| 1843 | Merchants' magazine and commercial review —p. 347 | William B. Dana | Let the moneyed capitalist have but confidence, and the idle laborers be employed, and the surplus produce will then be consumed, or bartered for luxuries ... |
| 1843 | The Penny Magazine of the Society for the Diffusion of Useful Knowledge—p. 156 | | ... eternally perceptible in the condition of tin-trade, the great moneyed capitalist , standing at the centre of this enormous web, throws over his arch of ... |
| 1844 | The Junius tracts ... —p. 103 | Calvin Colton | It is true, that the moneyed capitalist wants his dividend ; but the profits of labor, united with moneyed capital, well applied, are many times greater ... |
| 1844 | The Dublin University magazine: a literary and political journal, vol. 23 —p. 606 | | But, like the monied capitalist or owner of accumulated stock, he only furnishes the means of industry to his tenant. Thus, on the manner in which he has ... |
| 1844 | The logic of political economy —p. 228 | Thomas De Quincey | Faithful to the monetary symptoms, and the fluctuations this way or that, eternally perceptible in the condition of every trade, the great monied capitalist ... |
| 1845 | Four lectures on the organization of industry: being part of a course ... —p. 70 | Thomas Charles Banfield | In this case, it is to the moneyed capitalist that we resort, to men whose industry has created, and whose enterprising spirit prompts them to venture, ... |
| 1845 | Political dictionary: forming a work of universal reference, both ..., vol. 1—p. 868 | | These are discounted by the moneyed capitalist through the intervention of bill-brokers. A few of the London bankers also ... |
| 1846 | The New-Yorker, vol. 3-4 —p. 363 | Horace Greeley, Park Benjamin | ... reduce the value of money, but increase it in the same proportion, and double at once the wealth of the moneyed capitalist , with his cash and mortgagee. ... |
| 1846 | The eventful epoch; or The fortunes of Archer Clive —p. 227 | Nicholas Michell | ... and to raise a penniless adventurer to a moneyed capitalist , surely the world must allow that he had a right to do what he liked with his own. ... |
| 1846 | Present condition and future prospects of the country in reference to free ... —p. 49 | F. C | If he cannot command the time necessary for this purpose the monied capitalist will step in before him, and having by means of capital in hand obtained ... |
| 1846 | Industry of the Rhine ... embracing a view of the social condition ..., vol. 1-2 —p. 130 | Thomas Charles Banfield | through twenty classes, stretching from the monied capitalist to the day-labourer. The parties now rated are divided into nineteen classes, ... |
| 1848 | The Standard library cyclopedia of political, constitutional, statistical ... —p. 868 | | ... discounted by the moneyed capitalist! through the intervention of bill-broken. A few of the London bankers also count ... |
| 1848 | The organization of industry: explained in a course of lectures —p. 70 | Thomas Charles Banfield | In this case, it is to the moneyed capitalist that we resort, to men whose industry has created, ... |
| 1848 | Henry C. Carey, works from 1848-1864: Pamphlet vol —p. 108 | | The moneyed capitalist profits by this — obtaining treble or quadruple the usual rate of interest ; but the miner, the founder, the cotton-spinner, ... |

| | | | |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1848 | The miscellaneous works of the Right Honourable Sir James Mackintosh: Three ... —p. 430 | Sir James Mackintosh | ... monied capitalist . But should the usurious habits of the immediate purchaser be inveterate, his son will imbibe other sentiments from his birth. ... |
| 1848 | Works: Vol. I.-XXV. —p. 174 | Thomas Chalmers | The great object of the monied capitalist , in fact, is to add to the nominal amount of his fortune. It is that, if expressed pecuniarily this year by twenty ... |
| 1848 | The Bankers' magazine and journal of the money market, vol. 2 —p. 701 | | From this cause, all classes are suffering more or less, and even the monied capitalist himself is beginning to feel the depressing ... |
| 1848 | Howitt's journal of literature and popular progress, vol. 3 —p. 240 | William Howitt, Mary Botham Howitt | The aristocrat, the crowned head, the monied capitalist , the wealthy merchant whose property is exposed on many an agitated coast and in many a ... |
| 1848 | Principles and observations on many and various subjects for the health of ... —p. 92 | John Moodie | By these and various other means are the banks brought down, and cause great injury to the monied capitalist and to the country. Hastily got up joint-stock ... |
| 1849 | The American Farmer —p. 188 | | ... and that a moneyed capitalist , who should annually lock up, or otherwise keep in an unprofitable condition a large portion of his capital, would, ... |
| 1849 | The Harmony of Interests, Agricultural, Manufacturing and Commercial ... —p. 108 | Henry Charles Carey | The manner in which the system operates upon the moneyed capitalist here is now to be examined. In 1835, as we have seen, the natural outlets for capital ... |
| 1850 | A treatise on the poor law of England: being a review of the origin, and ... —p. 155 | James Dunstan | The monied capitalist is free to employ that capital as he pleases, either in commerce or in loans. If he prefers the latter, and invests that capital in ... |
| 1851 | The North-Carolina reader: containing a history and description of North ... —p. 84 | Calvin Henderson Wiley | ... or rice; and there are places where a moneyed capitalist could rapidly increase his capital by speculations in bonds, and property of doubtful title, ... |
| 1851 | Masters and workmen: a tale illustrative of the social and moral condition ... —p. 224 | Frederick Richard Chichester Belfast (Earl of) | Pardon me! labour and time are the poor man's capital; and whilst the monied capitalist has a right to a profit, which remunerates him for every risk and ... |
| 1852 | Suggestions arising out of the present want of employment for labour and capital —p. 22 | John Maxwell (sir, 8th bart.) | He is entitled to claim that he should not be made a victim for the benefit of the moneyed capitalist . The manufacturers who spin and weave by machinery are ... |
| 1852 | Money and morals: a book for the times —p. 8 | John Lalor | As soon as the monied capitalist chooses to have his property in the form of food, instruments, and materials for the purpose of production, ... |
| 1853 | Harper's magazine, vol. 6 —p. 72 | Making of America Project | ... against these great moneyed capitalist , or they will buy us all out in a few generations. The old race of country gentlemen is already much diminished ... |
| 1854 | Southern literary messenger, vol. 30-31 —p. 264 | | Mr. Bulwer has elaborated the character of the monied capitalist , the artisan of his own fortunes in his influence over others. He regards the large popular ... |
| 1854 | The Southern quarterly review, vol. 25 —p. 183 | Jay I. Kislak Collection (Library of Congress) | The difficult rich lands must wait for the monied capitalist ; the wretchedly sterile, lie until, in the progress of society, all else being monopolized, ... |
| 1855 | Currency, self-regulating and elastic: explained in a letter to His Grace ... —p. iii | A British merchant | Moneyed capital and propertied capital the same, Difference between the moneyed capitalist and the propertied capitalist, Stock in the funds is not ... |
| 1855 | Currency, self-regulating and elastic: explained in a letter to His Grace ... —p. 15 | A British merchant | ... will shew how much of the capital in question belongs to him as "propertied capitalist," and how much to the Bank of England, not as " monied capitalist ," ... |
| 1855 | Currency, self-regulating and elastic: explained in a letter to His Grace ... —p. 55 | A British merchant | ... a fall in the value of money reducing the share of the moneyed capitalist , while it increases that of the propertied capitalist, and a rise in the value ... |

| | | | |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1855 | The North-Carolina reader: containing a history and description of North ... —p. 84 | Clavin Henderson Wiley | ... or rice ; and there are places where a moneyed capitalist could rapidly increase his capital by speculations in bonds, and property of doubtful title, ... |
| 1855 | The collected works of Dugald Stewart, vol. 8 —p. 256 | John Veitch | tries only as the wealth of the monied capitalist differs from that of the cultivator of the ground. The difference, indeed, in a national point of view, ... |
| 1856 | The Lancet, vol. 2 —p. 627 | | The landed proprietor, whose acres will continue to prove productive to his remotest posterity, and the moneyed capitalist , whose funds will continue to ... |
| 1857 | The American citizen: his rights and duties, according to the spirit of the ... —p. 133 | John Henry Hopkins | Where is the heart or sympathy between the moneyed capitalist and his operatives ? The whole essence of the business is resolved into dollars and cents. ... |
| 1857 | The true principles of currency, explained in a report of evidence submitted ... —p. 49 | William Lyon McPhin | The difference between the propertied capitalist and the monied capitalist is " simply this, that, while the former holds title-deeds of real or heritable ... |
| 1858 | Executive documents, annual reports —p. 373 | Ohio | The legalization of such a rate of interest enables the moneyed capitalist to absorb far too large a share of the earnings of the farmer, the mechanic and ... |
| 1858 | Madras: its civil administration, being rough notes from personal ... —p. 84 | Patrick Boyle Smollett | ... exists there it is not possible for any banker, merchant, or native monied capitalist to obtain possession, and to manage the property with advantage. ... |
| 1858 | Topics for Indian statesmen, ed. by G.R. Norton —p. 167 | John Bruce Norton | ... merchant, or native monied capitalist to obtain possession and manage the property ; the partizans of the old family would soon make the place too hot ... |
| 1859 | The logic of political economy, and other papers —p. 170 | Thomas De Quincey | ... eternally perceptible in the condition of every trade, the great moneyed capitalist standing at the centre of this enormous web, throws over his arch of ... |
| 1859 | The North-Carolina reader. Number III: prepared, with special reference to ...—p. 84 | Calvin Henderson Wiley | ... or rice ; and there are places where a moneyed capitalist could rapidly increase his capital by speculations in bonds, and property of doubtful title, ... |
| 1860 | The Bankers' magazine, vol. 20 —p. 760 | | ... shall be allowed on all notes deposited at the same rate as is charged on notes issued on loans, which he contends would protect the monied capitalist ... |
| 1860 | The Bankers' magazine, vol. 20 —p. 767 | | ... or to lend his money at the lowest rate of interest he might choose to accept. But it would protect the moneyed capitalist against that ruinous depression in rates of discount which, under present arrangements, always accompanies a ... |
| 1861 | Chamber's journal of popular literature, science and arts — | William Chambers, Robert Chambers | But the moneyed capitalist , though junior to the rest, enjoys a very respectable antiquity. About the first 'operation' we read of was that of the Pharaoh ... |
| 1861 | American farmers' magazine —p. 11 | | The manner in which the system operates upon the moneyed capitalist here is now to be examined. In 1835, as we have seen, the natural outlets for capital ... |
| 1861 | A new monetary system: the only means of securing the respective rights of ... —p. 333 | Edward Kellogg | The moneyed capitalist , and without rendering the slightest equivalent. I appeal to persons in all sections of our country if cases quite as hard as these ... |
| 1862 | Open air grape culture: a practical treatise on the garden and vineyard ... —p. 116 | John Phin | ... away than the stock of the moneyed capitalist , which only brings in two per cent., even though his neighbor, on a different investment, receives ten. ... |
| 1865 | Principles of Social Science, vol. 1 —p. 13 | Henry Charles Carey | Effect of those measures, that of giving to the moneyed capitalist , increased command overland and labor—always an evidence of declining civilization, ... |

別表II: 1860年代中葉までの英米におけるmonied (moneyed) capitalの用例

1. 本表は、Google booksの検索機能を使ってmonied capitalおよびmoneyed capitalという語を検索した結果を一覧表に加工したものである。
2. マルクスが『資本論』第3部第5章を執筆した1865年までの文献に限定した。
3. 文献の刊行年の順に並べ、最左欄に刊行年を記した。その他の欄は、Google booksでの検索結果をそのまま掲げている。なお、最右欄の用例の末尾に“x pages”としてあるのは、筆者が加えたもので、当該文献ではmonied (moneyed) capitalという語があるページが1ページだけでなく、xページにある、という意味である。したがって、この欄に記載されたもののほかに用例があるということになる。また、この語があるページが1ページだけの場合でも、このページのなかでこの語が複数回使われている場合にも、この欄に記載されているもののほかにこのページに用例があるということになる。気付いたOCRによる誤認識は訂正した。
4. 刊行年のうち、イタリックにしたのはアメリカで刊行された文献である。
5. 念のために付言するが、第2欄で見出しとなっているものは簡略化されているので、当該文献のなかにはこの見出しとは別の文書が含まれていて、最右欄での用例がこの別文書のなかのものである場合もあり、また、最右欄での用例は、第3欄に記載されている人物の手によるものではなく、引用文中のものである可能性もあるので、注意されたい。
6. なお、本稿本文の3および4で言及した文献は省いた。

| | | | |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1794 | Information concerning the strength, views, and interests of the powers ... — p. 278 | Robert Heron, Maurice Montgaillard (comte de) | It is not to be denied, that, immediately after those Bankruptcies, some part of the moneyed capital of the nation, and by consequence, some part of its ... |
| 1795 | An historical, geographical, commercial and philosophical view of the ... — p. 318 | William Winterbotham | ... concerning the real extent of the monied capital of a country, and still more concerning the proportion which it bears to the objects that invite the ... |
| 1796 | An historical, geographical, commercial, and philosophical view of the ... — p. 324 | William Winterbotham | There are strong circumstances in confirmation of this theory. The force of monied capital which has been displayed in Great Britain, and the height to ... |
| 1801 | The American review, and literary journal, vol. 1 — p. 163 | Charles Brockden Brown | ... who give specie for it, the monied capital of the country is increased; if they give commodities in exchange for it, the fixed capital, that is, ... |
| 1802 | General view of the agriculture of the county of Peebles ... — p. 310 | Charles Findlater | ... the outlay of their monied capital , or overseeing the cultivation of their own soil: ... |
| 1806 | Handbook for bank officers — p. 94 | George Mathewes Coffin | ... from any discrimination against these banks and in favor of moneyed capital invested in State banks or other enterprises located in the same State. ... |
| 1813 | Perpetual war, the policy of Mr. Madison: Being a candid examination of his ... — p. 76 | John Lowell | How long will it be at this rate, before the monied capital will be exhausted? Will the interest of the debt be paid after the loans cease? ... |
| 1815 | The Port folio — p. 423 | Joseph Dennie, Asbury Dickins | Banks distribute the monied capital of a country, after greatly augmenting it, into those hands which are likely to make the most prudent and profitable ... |
| 1818 | Niles' weekly register, Sept. 1818–Mar. 1819, Vol. XV—p. 430 | | ... are the large accession or monied capital at your office by the ... will produce until its great monied capital can be actively and safely employed in ... (2 pages) |
| 1819 | The population and riches of nations: considered together, not only with ... — p. 182 | Sir Egerton Brydges | But this is not peculiar to money vested in the Funds: it is incident to all Monied Capital , and its interest: to other sorts of Monied Capital , ... |
| 1820 | Addresses of the Philadelphia society for the promotion of national industry — p. 269 | Mathew Carey, Lyman Beecher, Samuel Jackson, Philadelphia Society for the Promotion of National Industry | ... our raw materials to pay the hire of foreign workmen, to whatever extent we trade, a monied capital must leave the country to pay the adverse balance. ... |
| 1821 | The principles of political economy applied to the financial state of Great ... — p. 169 | James Syme | The necessity of increasing the monied capital of the nation, in proportion to the progress of indirect taxation, is the circumstance which has always ... (10 pages) |

| | | | |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1823 | Acts of the Legislature of the State of New Jersey — p. 46 | New Jersey | ... as the amount of their monied capital , whereas the actual amount of their capital employed for banking purposes is only sixty eight thousand dollars. ... |
| 1825 | Outlines of political economy — p. 79 | John McVickar | ... placing it on a level with a monied capital — they elevate the artist, the scholar, and the mart of Science in the scale of society — and by placing ... |
| 1828 | Register of debates in Congress: comprising the leading debates and ... — p. 1728 | United States. Congress, Joseph Gales, William Winston Seaton | On the sea-board, therefore, all the monied capital of the nation would concentrate. The interior would be in dependence, debt, and bondage. ... |
| 1828 | Reports of the Secretary of the Treasury of the United States, prepared— p. 16 | United States. Dept. of the Treasury, Alexander Hamilton | It is hardly possible that it should not be materially affected by such an increase of the monied capital of the nation, as would result from the proper ... |
| 1828 | Reports of cases argued and determined in the Court of Appeals of ..., vol. 5 — p. 177 | Virginia. Supreme Court of Appeals, Peyton Randolph, Virginia. General Court | ... and that as little of the capital as possible should be put to hazard, or subjected to loss. The main object was, to create a monied capital , to 1827 ... |
| 1829 | The Gentleman's magazine, vol. 99, part 1 — p. 36 | | On the other hand it may be affirmed, that commerce generates a monied capital , which the other does not, and that it makes an estate out of mere industry. ... |
| 1829 | Virginia literary museum and journal of belles lettres, arts, &c, vol. 1 — p. 45 | University of Virginia | It is of importance to determine this, because they vary, as we have seen, in price, so greatly in different countries; real capital, for example, being cheaper here than in Europe, monied capital dearer, and machinery dearer still. ... (2 pages) |
| 1829 | The Free trade advocate and journal of political economy: devoted to ..., vol. 2 — p. 229 | | Monied capital drives industry without money out of the market, and forces it into its service, in every case where the object of contest is an enormous ... |
| 1830 | Register of debates in congress— p. 906 | | ... in other words, that the labor of the South, now amounting to a moneyed capital of four hundred millions, would not, but for this circumstance, ... (4 pages) |
| 1831 | Journal of the senate of the united states of america — p. 96 | | ... at the rate of tax imposed upon the State institutions of like character, or at the rate of tax imposed upon moneyed capital of private individuals. ... |
| 1831 | The American Quarterly Review. vol. IX. March& June, 1831. no. XVII. no. XVIII — p. 262 | | Surely the people of these and the neighbouring states cannot seriously object, that a portion of the moneyed capital which has been accumulated in the ... |
| 1831 | Reports of civil and criminal cases decided by the Court of Appeals of ... — p. 534 | | ... with respect to the capital, consists in this, that Honore alleges they were each to advance the whole of their monied capital , ... (2 pages) |
| 1831 | Niles' weekly register — p. 300 | Hezekiah Niles, William Ogden Niles | ... sustains the value of real estates everywhere it profitably employs all our monied capital , which otherwise must go to distant countries, ... |
| 1832 | Legislative and documentary history of the Bank of the United States ... — p. 286 | Matthew St. Clair Clarke, David A. Hall | Through all the periods of the federal administration, this moneyed capital was their shield and their sword. It extended their influence and secured the ... (6pages) |
| 1832 | The Edinburgh encyclopedia, vol. 18 — p. 282 | Sir David Brewster | ... a wilderness inhabited only by wild beasts, or the scarcely less savage Indians; attainable moneyed capital was then almost unknown in the ... |
| 1832 | Reports of Committees of the House of Representatives, at the Second Session of the Twenty-second Congress —p. 4 | | A nation may exist without professional men, without a moneyed capital ; ... |
| 1832 | The Quarterly review — p. 377 | The Quarterly Review, vol. 46. (No. 91). | ... however, it is notorious that monied capital is in this country in as complete a state of plethora as labour; and that the lowness of profit, ...own for the deposit of spare monied capital when no opportunity is afforded for its active occupation ... |

| | | | |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1833 | House documents, otherwise publ. as Executive documents: 13th congress, 2d ... — p. 786 | United States. Congress. House | Moneyed capital employed at each mill... Total of taxed and moneyed capital ... (3 pages) |
| 1833 | Debates in Congress— p. 1112 | | By the State laws, other bank capital is taxed, and private moneyed capital of an individual is taxed at interest; and, sir, I can see no solid objection to ... (4 pages) |
| 1833 | Outline of a plan for a national bank: with incidental remarks on the Bank ... — p. 7 | Bank of the United States (1816–1836) | Thus, it is obvious, that its business is conducted without monied capital , and exclusively on means arising from its credit. The English system would be ... |
| 1834 | The Glory of America — p. 162 | R. Thomas | ... a moneyed capital ; but it cannot exist, in a civilised state, without agriculturists and artisans. But it is of little avail to ... |
| 1834 | Public Documents — p. 42 | | When it is considered that the paper system is generally supposed to increase the activity of the surplus moneyed capital of a country, by collecting it ... (2 pages) |
| 1834 | The Christian advocate — p. 48 | Ashbel Green | ... and, as it is affirmed, with an uncommon amount of monied capital in the country, are languishing under a general stagnation of all kinds of business, ... |
| 1834 | Blackwood's Edinburgh magazine, vol. 35 — p. 349 | | ... or monied capital will take its flight to other lands, where labour assumes a less menacing attitude, and offers the prospect of more secure returns. ... |
| 1834 | The North American review, vol. 39 — p. 107 | Jared Sparks, Edward Everett, James Russell Lowell, Henry Cabot Lodge | Under such circumstances the rate of interest must be low, — and low in exact proportion to such excess of monied capital , or national wealth. ... (3 pages) |
| 1835 | supplement to the Connecticut courrant — p. 126 | | This is often even far better than a monied capital. This will enable you, as far as you ought to desire it, to command the monied capital of other men, ... (2 pages) |
| 1835 | Mechanics' magazine, and journal of the Mechanics' Institute — p. 41 | New York. Mechanics' Institute | A purely monied capital may pass away from him by a thousand contingencies; but this other capital, which I choose to call a moral capital, ... (2 pages) |
| 1835 | Railway locomotives and cars, vol. 4 — p. 813 | | When banks were first established in this state, and for some time thereafter, the amount of monied capital was small compared with the quantity of business ... |
| 1835 | The miscellaneous writings: literary, critical, juridical, and political of ... — p. 502 | Joseph Story | It will not be denied, that the United States, even at the present time, does not, when compared with the great nations in Europe, abound in monied capital (5 pages) |
| 1836 | An exposition of facts and arguments in support of a memorial to the ... — p. 37 | Boston (Mass.). Citizens | The undersigned are aware it may be objected to us, that, as the establishment of a new bank does not increase the moneyed capital of a community, ... (2 pages) |
| 1836 | Notes on some of the questions decided by the Board of commissioners under ... — p. 102 | John Kintzing Kane | They were those, in which the cargo was acquired principally by the skill, enterprize and labour of the claimants, and the application of moneyed capital ... |
| 1836 | American and English corporation cases: a collection of all corporation ... — p. 304 | | It was claimed in <i>Hepburn v. School Directors</i> ... that the words " moneyed capital ," as used in the act, signified only money put out at interest ... The court in that case further held that the exemption of some moneyed capital ... (6 pages) |
| 1836 | An exposition of facts and arguments in support of a memorial to the ... — p. 49 | Henry Lee, Boston (Mass.) | So in respect to the monied capital of the community; let us measure its utility not by its amount, but by its moving power — by the life and energy which ... (7 pages) |
| 1836 | A letter, on the present system of legislation which regulates internal ... — p. 17 | Thomas Grahame, William Downe Gillon | ... financial policy to raise the value of the monied capital of the country ... that monied capital should fall in value; in other words, that the rate of ... (3 pages) |
| 1836 | Documents of the Senate of the State of New York — p. 20 | New York (State). Legislature. Senate | I cannot, therefore, adopt the conclusion, that there is at this day the same disproportion between the amount of monied capital and the quantity of ... |

| | | | |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1836 | Journal of the American Institute: a monthly publication, devoted to ... vol. 1 — p. 625 | American Institute of the City of New York | ... forty or fifty millions of monied capital , scattered over half the banking institutions of the country, would clearly and inevitably confer. ... (2 pages) |
| 1837 | The Congressional globe [afterw.] record. 23rd Congress — p. 34 | United States Congress | ... upon principles altogether foreign to the commercial principles which control and regulate the moneyed capital of the country. ... (2 pages) |
| 1837 | A treatise on usury and usury laws | John Augustus Bolles — Bosten | Interest may be low because business is so perilous and unprofitable that there are no borrowers, as well as because the country is rich in moneyed capital (4 pages) |
| 1837 | Observations on the recent pamphlet of J. Horsley Palmer, Esq., on the ... — p. 19 | Samson Ricardo | The deposits left by individuals with bankers are monied capital , the functions of which are performed by a moderate portion of currency; the banker is ... (3 pages) |
| 1838 | Memoirs of Andrew Winpenny, count de Deux Sous: comprising numerous ... — p. 155 | | ... where I was doomed to learn that a man to thrive at that sink of iniquity, ought to commence his operations without a moneyed capital |
| 1838 | The wrongs of man exemplified; or, An enquiry into the origin, the cause ... — p. 314 | William Manning | ... that it is this state of things which has made so many men either blind, or wilfully blind; they can see what great monied capital has effected, ... (4 pages) |
| 1839 | Extra globe — p. 185 | Francis Preston Blair | ... but in the last contingency, this army clothed in the panoply of exclusive privileges and of a moneyed capital of four hundred millions of dollars, ... |
| 1839 | The educator, prize essays on the expediency and means of elevating the ... — p. 270 | Central society of education | Economical science has assessed the value of physical labour and moneyed capital , but it has scarcely yet been called upon to assess the value of ... |
| 1840 | Annual meeting of the American Institute of Instruction — p. 32 | American Institute of Instruction | If this is the case in Massachusetts, richer in moneyed capital , in proportion to her numbers than any other State in the Union, it is still more so in ... |
| 1840 | The Quarterly Review — p. 92 | | ... possessing probably almost all the land and all the moneyed capital — in ... |
| 1840 | The United States magazine and Democratic review, vol. 8 — p. 468 | | On the other hand we find the rich bankers and merchants, who have the exchanges of products and the monied capital of the globe in their hands, ... (2 pages) |
| 1841 | Documents accompanying the Journal of the House of Representatives of the ... — p. 214 | Michigan. Legislature. House of Representatives | ... that our moneyed capital should be increased rather than diminished? An affirmative answer is readily given by all, except such as are utterly reckless ... |
| 1841 | The Historical register of the United States — p. 127 | Thomas H. Palmer | Having shewn the ability to lend, the only question remaining is, will it be interest of those who hold the monied capital to advance it to the government? ... |
| 1842 | Niles' weekly register, vol. 61 — p. 259 | | That an institution founded on a more extensive plan, with a larger moneyed capital , which should deal in exchanges on a broad scale, buying bills at long ... |
| 1842 | The Journal of banking, from July 1841 to July 1842 ... to which is annexed ... — p. 167 | William M. Gouge | ... but he receives the same interest back as a stockholder. It is evident that the equality of wealth is destroyed. The possession of a moneyed capital ... (2 pages) |
| 1843 | Agricultural journal and transactions of the Lower Canada ..., vol. 1-2 — p. 91 | Lower Canada Agricultural Society (Canada) | In place of the prevailing and mistaken notion that monied capital invested in agriculture is either unproductive, or less so than in other pursuits, ... |
| 1844 | The Junius tracts ... — p. 104 | Calvin Colton | The recognition of the true position of labor, in relation to moneyed capital , is of no inconsiderable political importance. We mean its position in the ... (11 pages) |
| 1844 | Transactions of the New-York State Agricultural Society for the year ..., vol. 3 — p. 474 | New York State Agricultural Society | They have also taught him that to derive a profit from his capital, at all proportionate with that yielded by moneyed capital , during the collapse that is ... |
| 1844 | A concise exposition of the doctrine of association ... — p. 31 | Albert Brisbane | ... manufactories, railroads, canals and all varieties of joint-stock property, or as moneyed capital invested in banks and insurance companies, now are, ... (2 pages) |

| | | | |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1844 | The Dublin University magazine — p. 606 | William Curry, Jun. & Co | ... (where industry is on a sound footing,) by the rate of interest which monied capital commands, If rents much exceed the ordinary rate of interest, ... (3 pages) |
| 1844 | Notes on political economy: as applicable to the United States — p. 216 | Nathaniel A. Ware | ... monied capital . A people may advance, become in one sense wealthy, ... To accumulate monied capital , however, as a nation, something foreign, either in the ... (3 pages) |
| 1844 | Reports of cases adjudged in the High Court of Chancery: before the Right ... — p. 232 | | ... bring in a share of the monied capital in case an addition should be found necessary, exceeding the 1,500l. to be brought in by the other partners. ... |
| 1845 | Reports and resolutions of South Carolina to the General Assembly — p. 90 | South Carolina | On motion of Mr. O'HANLON, <i>Resolved</i> , That the Committee of Ways and Means be instructed to enquire into the expediency of imposing a tax on moneyed capital (3 pages) |
| 1845 | Accounts and papers — p. 52 | | I only question, whether the bringing labour does introduce monied capital as well as labour ? — I believe that has been the case in our instance. ... |
| 1845 | The lives and opinions of Ben'n Franklin Butler: United States District ... — p. 79 | William Lyon Mackenzie | ... monied capital located here, to give countenance and support to commercial enterprise. The capital of the Hanks located here, under state incorporations ... |
| 1846 | The life and times of Henry Clay — p. 325 | | It will be observed, that in all these cases, the capital of labor creates the moneyed capital thus or otherwise vested, and that in the case of a laborer ... (2 pages) |
| 1846 | Letters of S. D. Bradford, esq. to the Hon. Abbott Lawrence, in reply to ... — p. 10 | Samuel Dexter Bradford, Abbott Lawrence, William Cabell Rives | I have intimated that there is less capital in the new states, than in many of the old ones; it will not be denied that the moneyed capital of this country ... |
| 1846 | The life of George Washington: commander in chief of the American forces ... — p. 192 | John Marshall | The sudden increase of monied capital derived from it, invigorated commerce, and gave a new stimulus to agriculture. About this time, there was a great and ... (2 pages) |
| 1847 | De Bow's review, vol. 4 — p. 259 | Making of America Project | POPULATION, THADE, AND MONEYED CAPITAL OF NEW YORK. ... |
| 1848 | Sparks' American biography — p. 223 | Jared Sparks | ... perhaps, have been determined on selecting another employment, by the fact, that he could attempt the bar without the necessity of a moneyed capital , ... |
| 1848 | De Bow's commercial review of the South & West, vol. 5 — p. 43 | James Dunwoody Brownson De Bow | Where large amounts of goods, produce and bills come for sale, there is necessarily required large monied capital New York has always had an insufficiency of ... |
| 1849 | The Law times, vol. 12 — p. 104 | | ... namely, that such moneyed capital as was from time to time employed in this partnership in brewing, ... |
| 1851 | Life and letters of Joseph Story: associate justice of the Supreme Court of ... — p. 372 | Joseph Story, William Wetmore Story | It has greatly enlarged, and, the Memorialists had almost said, created, the moneyed capital of the country. And the Memorialists believe, that it cannot be ... |
| 1851 | Annual report of the Board of Public Works to the General Assembly of ... — p. xix | Virginia. Board of Public Works | ... branches, located in every portion of the state, enabling them to exert a powerful control over its moneyed capital , would probably defeat the organization ... |
| 1851 | An answer to the pamphlet of Mr. John A. Lowell: entitled "Reply to a ... — p. 195 | Edward Brooks | ... of moneyed capital from his father's estate, and that he had distributed \$90000 of it equally among the heirs ? The latter branch of the inquiry, ... (4 pages) |
| 1851 | Annual report of the Commissioner of Patents, vol. 2 — p. 132 | | The German and French wools alluded to can yet be produced, because neither labor nor moneyed capital demand so good a return where they are grown as in ... |
| 1852 | The American Whig review, vol. 15 — p. 450 | Making of America Project | Where labor is high and moneyed capital scarce, as in this country, neither one nor two per cent, is considered a profitable interest on an investment. ... |
| 1852 | The industrial resources, etc. of the southern and western states ..., vol. 2 — p. 161 | James Dunwoody Brownson De Bow | In the progress of population, trade and value of property belonging to the city, it has necessarily resulted that the active moneyed capital has progressed ... |

| | | | |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1852 | Rational religion and morals: presenting analysis of the functions of mind ... — p. 878 | Thomas J. Vaiden | A proper use of finance is a legitimate use of moneyed capital , that embraces legitimate improvements in all proper respects. Personal responsibility is too ... |
| 1852 | Journal of the ... session of the Legislature of the State of California — p. 684 | California. Legislature. Senate | The moneyed capital of this State would, therefore, be tempted to a transfer to the Atlantic, to build ships there for service in our waters; and in ... |
| 1852 | The whistler at the plough: containing travels, statistics, and vol. 1 — p. 330 | Alexander Somerville | ... particularly where the Mr Parkinsons of England interfere with their absurdities to keep monied capital out of agriculture and lay enterprise prostrate. ... |
| 1853 | The modern farmer: or, Home in the country: designed for instruction and ... — p. 317 | John Lauris Blake | In place of the prevailing and mistaken notion that monied capital invested in agriculture is either unproductive, or less so than in other pursuits, ... |
| 1854 | Memoirs, speeches and writings of Robert Rantoul, jr — p. 358 | Robert Rantoul | To depreciate the currency for the sake of having “cheap moneyed capital ” would be a sad mistake, and if pushed to the extent proposed by our friends who ... (2 pages) |
| 1854 | Russia as it is — p. 153 | Adam G. De Gurowski (count) | Undoubtedly, a very large amount of accumulated or moneyed capital is possessed by the middle classes. ... |
| 1854 | The Journal of the Society of Arts, and of the Institutions in Union — p. 191 | George Bell | ... whereas present rates of wages are not equivalent to the lowest rate of interest derived by moneyed capital , and no adequate return for labour bring ... |
| 1854 | Reports of cases argued and determined in the Supreme Court of Louisiana — p. 287 | Louisiana, Louisiana. Supreme Court | ... were the mortgages given for stock, which were to stand as securities for the loan, which was to be made to provide the monied capital of the bank. ... |
| 1855 | Currency, self-regulating and elastic: explained in a letter to His Grace ... — p. iii | British merchant | Moneyed capital and propertied capital the same, Difference between the moneyed capitalist and the propertied capitalist, Stock in the funds is not ... (4 pages) |
| 1855 | The life of Henry Clay, the great American Statesman, vol. 2 — p. 325 | Calvin Colton | It will be observed, that in all these cases, the capital of labor creates the moneyed capital thus or otherwise vested, and that in the case of a laborer ... (2 pages) |
| 1855 | Words for the workers: in a series of lectures to workingmen, mechanics and ... — p. 30 | William D'Arcy Haley | Now, suppose their wildest desires realized, property declared to be a robbery, and the moneyed capital of the country portioned out pro rata among the ... (2 pages) |
| 1855 | Reports of the Prison Discipline Society, Boston, vol. 1 — p. 735 | | A nation may exist without professional men, without a moneyed capital ; but it cannot exist, in a civilized state, without agriculturists and artisans. ... |
| 1856 | Early history of the University of Virginia — p. 506 | Nathaniel Francis Cabell, Thomas Jefferson, Joseph Carrington Cabell | From the report of the Committee of Schools and Colleges, it appears that the present moneyed capital of William & Mary amounts to the sum of ... |
| 1856 | A history of the struggle for slavery extension or restriction in the United ... — p. 135 | Horace Greeley | The moneyed capital of the corporation was not to exceed five millions of dollars; but no more than four per cent, could be assessed during the year 1854, ... |
| 1856 | The American Statesman — p. 84 | Andrew W. Young | It would be a moneyed capital held by those who wish to place money at interest. Funding the debt would give the stock a permanent character, and enable its ... |
| 1856 | A Memoir of Hugh Lawson White — p. 207 | | ... profitable circulation of our funds, from the centre to the extremities of the Union, and thus add to the force of the moneyed capital of the country. ... (2 pages) |
| 1857 | Annual report of the secretary of the Maine Board of Agriculture, vol. 1 — p. 115 | Maine Board of Agriculture | ... nor was there any want in the nervous system; there is an abundance of power in moneyed capital to send an electric shock through the whole structure. ... |
| 1857 | America and Europe— p. 279 | Adam G. De Gurowski | ... numbers of whom have come here supplied with moneyed capital , and thus at once in every respect augmenting the general wealth of America. ... |
| 1857 | The history of slavery and the slave trade: ancient and modern; the forms of ... — p. 697 | William O. Blake | The moneyed capital of the corporation was not to exceed five millions of dollars; but no more than four per cent, could be assessed during the year 1854, ... |

| | | | |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1858 | The Mining magazine and journal of geology, mineralogy, metallurgy vol. 10 — p. 351 | | ... should possess those features which lead us to conclude that it will be persistent in depth, that he has invested his moneyed capital , or his capital ... |
| 1858 | The North British review, vol. 28–29 — p. 109 | American Edition, N.Y. | The “ monied capital ” of the country being thus described and limited, ... The disengagement of this fund of “monied capital,” at once from the capital of ... (2 pages) |
| 1858 | The theory and practice of the international trade of the United States and ... — p. 39 | Patrick Barry | He is not a manufacturer of monied capital , but a mere receiver and distributor of what may be going. True, he may issue an unlimited amount of notes ... (2 pages) |
| 1858 | Debow's review ... Agricultural, commercial, industrial progress and vol. 24 — p. 397 | James Dunwoody Brownson De Bow, R. G. Barnwell, Edwin Q. Bell, William MacCreary Burwell | The combined effect has been that the entire mass of monied capital has, ... A plethora of monied capital , compared with its remunerative employment, ... |
| 1859 | Abridgment of the Debates of Congress from 1789 to 1856 — p. 474 | The Author of the Thirty Years View | I have said that foreign merchandise, introduced from New York or elsewhere, was in our State subject to taxation; and why should not moneyed capital , ... |
| 1860 | Notes on books: being an analysis of the works published during each vol. 1 — p. 62 | | After explaining the nature of capital, — the difference between propertied capital and moneyed capital , — the nature of money, properly so called, ... |
| 1860 | Journal of the proceedings of the ... convention, vol. 23–27 — p. 42 | Episcopal Church. Diocese of Western New York. Convention, Episcopal Church. Diocese of Western New York. Council | The General Theological Seminary has long been compelled to live on its moneyed capital , which fact, with the expense of improvements in its real estate, ... |
| 1860 | Political economy for the people — p. 143 | George Tucker | This practice, which is very frequent with those who would derive a large profit from their moneyed capital , and which is popularly called shaving, ... |
| 1860 | Old leaves: gathered from Household words — p. 279 | William Henry Wills | And this, not because the man is a drunkard or an idler, but because he is a poor jobbing carpenter, without a penny of moneyed capital : who, ... |
| 1860 | A political text-book for 1860 — p. 100 | | The moneyed capital of the corporation was not to exceed five millions of dollars; but no more than four per cent, could be assessed during the year ... |
| 1861 | Art studies: the “old masters” of Italy: painting — p. 327 | James Jackson Jarves | Viewing his reputation chiefly as moneyed capital, his chief anxiety was to get a large return from it. Ultimately, his studio degenerated into a ... |
| 1861 | Messages — p. 77 | Massachusetts. Governor | ... against some of the older Commonwealths where moneyed capital is more abundant. But can it be imagined that; a great question of public economy, ... |
| 1862 | History of the Bank of England, Its Times and Traditions — p. 349 | John Francis | He deemed every attempt to create or augment wealth hazardous and delusive, which was not based upon the interest of its moneyed capital ; every measure ... |
| 1862 | The resources of Turkey considered with especial reference to the profitable ... — p. 103 | James Lewis Farley | ... even on security, and up to double that and more frequently paid, it may be conceived what are the wants here of monied capital , ... (3 pages) |
| 1863 | The American and English railroad cases: a collection of all the vol. 8 — p. 14 | United States. Courts, Great Britain. Courts | Congress gave the permission on condition that the taxation should not be at a greater rate than is assessed on other moneyed capital in the hands of ... |
| 1863 | Journal: 1st–13th congress. Repr. 14th Congress, 1st session – 50th ... — p. 696 | | ... circulation, dividends, or business, at a higher rate of taxation than shall be imposed by such State upon the same amount of moneyed capital in the ... |
| 1863 | The works of Henry Clay, vol. 1 — p. 464 | Henry Clay | It is these latter states and countries, which are impoverished, not only by the moneyed capital withdrawn, ... |
| 1863 | Journal of the senate of the United States of America, being the first ... — p. 408 | | State authority for State, county, or municipal purposes, but not at a greater rate than is assessed upon other moneyed capital in the hands of individual ... (4 pages) |

| | | | |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1863 | Stamp-collector's magazine —p. 22 | | Paper money supposes moneyed capital of the precious metals, and, to have any worth, must be backed by a bank with bullion in it sufficient to pay them off ... |
| 1863 | The Farmer's Magazine Volume the Twenty-Fourth — p. 428 | Farmers' Alliance | ... a corresponding gain to the national moneyed capital , which again seeks for reproductive channels in stimulating the industry of the manufacturer, ... |
| 1864 | Annual report of the Secretary of the Massachusetts Board of Agriculture—p. 48 | Massachusetts Board of Agriculture | But for this, no banking-houses would exist, and no investments of great moneyed capital have been made to carry forward useful arts. ... |
| 1865 | Rebel Brag and British Bluster —p. 17 | Owls-Glass | Without trade, her factories, her ships, her stores, her cities and her moneyed capital , would be valueless — would cease to constitute wealth. ... |
| 1865 | Public documents of the State of Wisconsin: being the reports of the various ... — p. 225 | Wisconsin | ... and not elsewhere, but not at a greater rate than is assessed upon other moneyed capital in the hands of individual citizens of such state: provided, ... |
| 1865 | The Social science review [afterw.] New York social science review. A ... — p. 83 | Alexander Del Mar | Currency, banks, and other institutions for mobilizing moneyed capital , and extent to which used. ... (2 pages) |

Where did Marx Adopt the Word “Monied Capital” from?
—Exploring the Source of the Key Word in Section 5 of Book III of *Capital*—

Teinosuke OTANI

《Abstract》

Marx used the term “monied capital” (or “moneyed capital”) very frequently in Chapter 5 of the first manuscript for Book III of *Capital* (used by Engels for Sec. 5 of Vol. III of *Capital* which he edited). In an article published in 1982, the author offered the conjecture that Marx must have adopted the term consciously as one that was practically as well as theoretically already in use at the time by capitalists, businessmen, or economists. But the author had no reliable evidence for this assumption. In opposition to this view, Prof. Masanari KOBAYASHI stated in a 2006 article that it was more likely that Marx himself coined the term. In 2009 Prof. Toshiaki OTOMO suggested in an article that Marx critically inherited the concept of monied capital from Thomas Tooke.

The author began to investigate the use of the term by political economists and others who preceded Marx using the search engine provided by Google Books to obtain a great deal of information. In this article he presents his findings based on the analysis of that information.

The term monied (moneyed) capital, far from being coined by Marx, was already used widely in the English-speaking world of the time in a variety of fields. Examples of the use of the term can be found as early as the eighteenth century. The term also appeared often in economic texts as well as in the Parliamentary Papers of England and Ireland which Marx is likely to have read.

The meaning of the term varies considerably, resulting in a great deal of conceptual confusion, but Marx seized on the cases where it meant interest-bearing capital and he characterized this usage as “*monied capital*”

in the English sense.” In Chapter 5 of the first manuscript for Book III of *Capital* Marx used the term solely in this meaning.

The term monied capital takes on different meanings in the two stages of the theoretical development of interest-bearing capital. First, in conceptually grasping interest-bearing capital, the term appears as the English word that expresses this capital itself. Next, in the subsequent analysis of interest-bearing capital in its more concrete forms under the credit and banking system, the term often refers to the loanable money capital centralized in the bankers' hands from various sources of unemployed money and money capital and then put at the disposal of productive and commercial capitalists according to the needs of their reproduction process. In other words, in the former stage the term is used in the broad sense of interest-bearing capital in general, while in the latter stage it has the narrower meaning of interest-bearing capital under the credit and banking system.